

### 三 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 一三

一三六

一、公正ナル軍備制限協定ニ依リテ世界ノ平和人類ノ福祉ヲ増進スルハ帝國ノ衷心希望スル所ニシテ軍備制限會議ノ成果ヲ擎クル為帝國ハ真摯ノ努力ヲ傾注セントスルモノナリ

二、軍備制限ハ國際連盟規約第八条ニ從ヒ國ノ安全及國際義務ノ履行ニ支障ナキ最低限度ヲ標準トシ各國ノ地理的地位及特殊ノ条件等ヲ考量シテ定ムヘキモノト認ム

三、軍備制限ノ目的ヲ完全ニ達成スルニハ陸海空ノ三軍ニ涉リ制限縮小スルコトヲ要スルモ協定ノ成立ヲ容易ナラ

シムル為各軍毎ニ審議スル方針ニ出ツルヲ適當ト認ム  
四、陸軍及空軍（水上部隊ヲ除ク）ノ制限ハ兵数ヲ以テ之ヲ為スヲ適當ト思考ス空軍水上部隊ハ之ヲ搭載スル艦船ニ依リ制限スルヲ適當ト思考ス

五、海軍軍備ノ制限ハ艦型（軍艦ノ基準排水量及兵装）及總排水量ノ制限ヲ以テ必要ニシテ十分ナリト認ム

六、予算ノ制限ハ国情ヲ異ニスル各國ニ付一律ノ標準ヲ以テ公平ノ制限ヲナスコト困難ト認ム

### 事項四 日英通商航海條約改定交渉

一一四 三月三日 松井外務大臣ヨリ  
在英國林大使宛（電報）

日英通商條約改訂ニ關スル我方方針ニツキ英

國政府ト意見交換方訓令ノ件

別電一 三月三日松井外務大臣在英國林大使宛電報第

六六号

條約改訂ニ關スル我方方針

二 同日松井外務大臣在英國林大使宛電報第六七号

條約ノ項別修正方針ニ關スル訓令

三 同日松井外務大臣在英國林大使宛電報第六八号

條約第二十一条、第二十六条及ビ第二十七条ノ追加乃至修正個所

第六五号

(一)大正十一年ゼノア會議ノ際貴官發大臣宛電報第一六三号

ニ關シ日英通商條約改訂ノ件ハ川島帰朝後條約改正調査委員会ニ於テ審議ヲ進ムル所トナリシモ恰モ財政經濟調査委員会ニ於ケル関稅改正ニ關スル審議抄ラサリシ為方

查委員会ニ於テ審議ヲ進ムル所トナリシモ恰モ財政經濟調査委員会ニ於ケル關稅改正ニ關スル審議抄ラサリシ為方

四 日英通商航海條約改定交渉

一一四

一三七

意ヲ以テ考量ヲ加ヘラレタキコトヲ説示セラレ別電第六七号所載各項ニ基キ条約修正ニ関スル覚書御提出相成リ右修正ノ目的ヲ達スヘキ条約又ハ協定ノ形式ニ付キテ意見ヲ交換相成ル様致度シ

(3)別電第六七号(一)前段ニ付テハ嚴格ニ言ヘハ日英条約第八条第三項ニ遵ヒ先ツ両締約国ノ一方ヨリ他方ニ対シ付属税表ニ対シ修正ヲ加ヘ度キ希望ヲ通告シ右通告ニ基ク商議カ開始セラレタル後六ヶ月後ニ至リ付属税表ニ対シ廃棄ノ通告ヲ為シ得ヘキモノニ属シ之レカ廃棄ノ前提トシテハ先ツ日本政府ヨリ付属税表修正ノ希望ヲ提議スルヲ順序トスルモ英國政府ニ於テ充分承知スルカ如ク本協定ハ現行条約締結當時英國政府ノ強硬ナル要望ニ基キ止ムナク我ニ於テ同意セルモノニ属シ形式ハ兎ニ角其ノ内容ニ於テハ全ク片務的ノモノナルニ付我ニ於テ一日モ早ク廃棄シ度キモノニ属スルノミナラス仮ニ條約ノ明文ニ基キ我カ希望ノ通り修正ヲ申込ムトセハ例ヘハ鉄及毛織物ノ全部並ニ綿織物ノ大部分ヲ第一号表中ヨリ削除シ之ニ代フルニ他ノ物品ヲ以テシ又茶、陶磁器、メリヤス製品、鉛鉗、一般絹織物等ヲ第二号表ニ追加ヲ要求セサル

ル方可ナルヲ説明セラレ其ノ同意ヲ得ル様極力御尽力アリタシ尤モ先方ノ希望ニヨリテハ前記六ヶ月失効期間ハ後述「クロード」ヨリ希望ノ次第モアリタルニ付更ニ相当期間延長スルコトヲ同意シ差支ナン因ニ日英協定税率廃止ニ関スル帝国政府ノ決意ニ関シテハ前記貴電第一六二号四所載ノ通り川島在欧ノ當時英國商務次官「ファウンテーン」トノ会見ニ於テ内諾ヲ得タル次第モアリ又一昨年九月頃在本邦商務官「クロード」モ右商務次官ノ内意ヲ受ケ永井通商局長迄右廃止ニ付テハ相当ノ猶予期間ヲ付セラレタキ希望申出テタル等ノコトアリシニ付英國政府ニ於テ夙ニ覺悟シ居ルコトト思考ス

(4)前段縷述ノ事情ニヨリ英國政府ハ別電第六七号(一)ノ通り此際第八条ノ廃棄ヲナスコトニ付同意ヲ拒ムモノニ非スト思考スルモ之レカ同意ヲ拒ムカ如キコトアル場合ハ第八条第三項ノ手段ヲ經テ同条ヲ廃棄シタキニ付貴官ハ本件日英条約修正ノ問題ト離レニ英國政府ニ対シ第八条第三項所載付属税表修正ノ希望ヲ公文ヲ以テ通告シ之カ受領ノ回答ヲ受取ラレタク又右通告ノ公文日付ハ今後ニ於ケル期間計算ノ標準トナルモノナルニ付大至急右公文

#### 提出方御取計ヒ相成度シ

(5)別電第六七号(二)ニ付テハ帝国ニ於テ相互主義ノ下ニ沿岸貿易開放ノ可否研究中ナルニ付之ニ備ヘンカ為メニシテ他意アルニアラス又開放ニ決セル場合ニハ真先キニ英國政府ト協議ヲ開始スヘキ意向ナリ

(6)別電第六六号(五)ニ関シ亞細亞大陸諸國ニ於テハ支那、露西亞、英領印度、仏領印度支那等何レニ於テ各陸境輸入貨物ニ対シテ特遇ヲ設ケ居ル所(大正十二年二月二十六日付通総機密合第四十五号付属支那閑稅特別會議準備調書第三輯参照)之ト等シク帝国ニ於テモ大正九年勅令第三〇六号ニ依リ朝鮮ニ本邦閑稅定率法ヲ施行セル以前ニ於テハ陸境輸入貨物ニ対シテハ朝鮮國境閑稅令ニヨリ海路輸入貨物ニ対スルト全ク別ノ閑稅ヲ實行シ居タリ然ルニ前記大正九年ニ於テ本邦閑稅定率法ヲ朝鮮ニ適用セル以後ニ於テハ之レカ為メ間島及南滿州方面へ朝鮮ヨリ出稼セル農民ノ耕作物ヲ朝鮮へ輸入スル場合ニ朝鮮側ニ於テ高率ナル閑稅ノ適用ヲ受ケ甚々不便ヲ蒙リ居ル事情アリ又來ル支那閑稅特別會議ニ於テ仏領及英領ノ印度方面ニ於テ接境支那地方ヨリノ輸入貨物ニ対シ現ニ特遇ヲ与

「居ルヲ理由トシ支那方面ニ於テ陸境關稅ノ割引ノ繼續ヲ主張スルカ如キコトハ支那關稅條約第六条末段ノ規定上予想シ得ヘキヲ以テ其ノ場合ニ於テハ我ニ於テモ支那ニ於ケル他ノ接壤國同様ノ措置ヲ採ルノ必要アルヤモ知レス其他朝鮮陸境關稅制度ヲ如何ニ改正スルヤニ付テ種々審議中ノ次第アルヲ以テ今次ノ條約改正ヲ機トシ現行日英條約第二十五条ニ對シ別電第六七号(3)ノ通り修正シ置クコトトシタシ尚右第二十五条修正ノ理由ハ朝鮮ヲ本條約ノ適用区域内トナスコトニ在リ旁々前記ノ如ク單ニ接境地方トノ地方的經濟關係ヲ密接ニスル目的ノ為列国ニ於テ為シ居ルト同様ノ措置ヲ講シ得ヘキ余地ヲ留保シ置カントスルノ外他意アルナク殊ニ滿蒙ニ於テ何等ノ特殊ノ利益ヲ求メントスルモノニ非ルニ付英國政府ニ於テ右修正ヲ余リ重視セサルコトヲ希望ス

從テ英國政府ノ希望ニヨリテハ前記趣旨ヲ一層明カニスル為別電第六七号(3) frontier traffic レ so long as ノ間ニ with the object of encouraging regional economic relations therewith ヲ插入スルコトムモ差支ナシ

(別電)

シ右加入ヲシテ十分意味アルモノトシ度キ意向アルニ依ル尚右各項ニ付テハ自治殖民地政府ニ於テハ本件帝國政府ノ提議ニ對シ主義ニ於テ應諾スル以上ハ當該領土ニ駐在スル帝國領事ヲシテ細目ノ協定ニ當ラシメ度キ意向ナリ

本電中(4)及別電第六七号在欧各大使ヘ転電アリタク又本電中(5)、(6)乃至(8)並ニ別電第六六号、六七号、六八号在「オタワ」、「シドニー」、「ケープタウン」、「カルカッタ」領事ニ転電アリタシ

(別電)

三月三日松井外務大臣爰在英國林大使宛電報第六六号

条約改訂ニ関スル我方方針

第六六号 別電甲

一、日英、日仏、日伊其他諸通商條約ニ關シテハ既ニ總定期限到来セルモノ在ルモ條約廢棄ノ申込ヲ為スコトナク現行條約中我ニ採リ不利ナル点及今日ノ事態ニ適合セサル個所ノミヲ修正ノ方法ヲ採ルコト

二、日英協定稅率ハ適當ナル予告期間ヲ付シ之ヲ廢止スヘク日仏、日伊ノ協定稅率ハ現經濟狀態ニ適合スル様適當

四 日英通商航海條約改定交渉 一四一

(別電第六七号(4)) 現行條約閩東州適用ニ關スル付屬公文

ノ趣旨ヲ明白ニスルノ外他意ナク又第二十六条第二項及

第二十七条第三項ニ對スル修正ハ英國殖民地不加入ニ關

シ滿載吃水線互認協定等ノ例ニ準シ全然相互的ニ為サン

トル趣旨ニ出ツ尤モ帝國ニ於テハ朝鮮、台灣等ニ關シ

今直チニ適用除外ヲ欲スル意向アルニ非ス從テ英國側ニ

ヨリ「殖民地及屬地」ヲ刪除スルコトニ異存ナキニ於テ

ハ我ニ於テハ本件第二十六条及第二十七条ニ對スル修正

ヲ提議セサルコトニ御取計ラヒ差支ナシ

(8) 別電第六七号(6)乃至(8)ニ關シテハ此ノ機會ニ英國政府ヨリ自治領殖民地政府等ニ對シ帝國政府ノ意ヲ取次キ其ノ慎重ナル考慮ヲ促カサシムルコトニ取計ラヒタシ蓋シ英國自治領條約加入問題ハ固ヨリ帝國政府ニ於テ之ヲ強制スル筋合ノモノニ非サルモ何等カノ形式ニ依リ一日モ早く解決シ置クコト日英國交ノ大局上必要ナルヲ認ムルニ依ル尤モ(8)ニ付テハ現ニ加奈陀政府カ日英條約ニ率先シテ加入シ居ル事態ニモ鑑ミ更ニ通商關係増進ノ道ヲモ講

ナル修正ヲナスト共ニ現暫定取極ヲ短期ノ正式ノ條約ニ改ムルコト

三、稅率ノ協定ハ輸出貿易確保ノ為必要ナル程度ニ其ノ範囲ヲ限局スルト共ニ協定ヲ許スヘキ輸入品目及稅率輕減ノ程度ハ本邦ノ財政上及產業上支障ヲ生セサル物品及程度ニ止ムルコト

四、關稅協定ノ形式ハ現行日仏協定ノ例ニ準シ歩合協定トナシ一定ノ条件ノ下ニ國定稅率ノ上下ニ對応シ得ヘキモノトナン又協定ハ短期ノ予告ヲ以テ廢棄シ得ヘキモノトスルコト

五、最惠國条款ハ無條件無制限ノモノヲ採用スルコト但シ接壤地域ミリ陸路輸入セラルル貨物ニ對シ特遇ヲ為シ得ヘキ余地ヲ留保シ置クコト

六、條約適用區域ハ殖民地及其ノ權力下ニ在ル地域一切ニ及ハシムルコト但シ殖民地等ヲ除外スル國ニ對シテハ我ニ於テモ同様ノ權利ヲ留保シ置クヲ可ト認ムルコト

七、關稅ニ關スル事項ト本邦國民ノ入國居住產業ニ關スル規定トハ併立シテ規定スルコト

八、目下稅率協定ナキ國ニ對シテモ三乃至七ノ方針ニヨリ

相互の協定ヲナシ差支ナキコム

## (別電II)

三月三日松井外務大臣在英國林大使宛電報第六七号  
日英通商条約ノ条項別修正方針ニ関スル訓令

## 第六七号 別電乙

一、日英条約第八条ハ付属税表ト共ニ大正十三年八月三十  
一日限り其ノ効力ヲ終了セシムルコト但シ一日右第八条

ヲ廢棄セシメタル後今後ニ於ケル状勢ニ依リ両国間貿易  
増進ノ為税率協定ヲ必要トスル場合ニハ完全ナル互恵ノ

新基礎ニ依リ協定ノ交渉ヲ為スヘキコトヲ約シ差支ナキ  
コム

一、同第二十一条第一項末段トシテ別電丙号(1)ノ通り追加  
ベルコム

二、現行条約第二十五条前段 frontier traffic ハ次ニ so  
long as such concessions are not extended to any  
other country ハ加く within 云々 frontier 逆十字 ハ  
削リダレ or to the treatment ハ續ク

四、第二十六条第一項トシテ別電丙号(2)ヲ追加シ第二十七  
条第二項ヲ別電丙号(3)ノ通修正ノコト而シテ posses-  
sions 及 territories under Japanese administration す  
ニハ委任統治地域及閩東州ヲ包含スル趣旨ナル並公文交  
換相成リ差支ナキコム

五、第二十七条条約ノ有効期間ハ英國政府ニ於テ二乃至四

ヲ同意スル場合ニハ向五箇年位確定的ニ延長スヘキコト  
ヲ約シ差支ナク尚二乃至五ハ一括一前段ト引離シ交渉ヲ  
為シ差支ナキコム

六、現行日英条約ニ未加入ナル豪州「リヨーリーランド」  
及南阿連邦ニ對シテハ条約改正ヲ機トシ加入方ニ付更ニ  
英國政府ニ申入ルコト尤モ入國居住産業關稅船舶ニ關  
スル最惠國待遇ヲ確保シ得ル限り日英条約ノ規定ニ對シ  
除外例ヲ設ケ差支ナキコト又米國加奈陀トノ例ニ準シ移  
民制限ニ關シ内部ノ了解ヲ遂ケ差支ナキコト

七、一九〇五年英領印度ニ關スル通商協約ノ範囲ヲ拡張シ  
入國居住産業及航海ニ關スル事項ヲモ包含スル條約ニ変  
更シ度キコム

八、日加間ニ於テハ現ニ日英条約ノ適用アルモ税率協定ニ  
關スル規定ヲ欠クヲ以テ貿易増進ノ目的ヲ以テ關稅互惠  
協定ヲ締結シ度キコト

九、愛蘭獨立國ハ現行日英条約第二十六条ノ解釈上ハ現ニ

条約適用区域ナリヤ多少疑問アルニ付此ノ際右適用区域  
ナルコトヲ明白ニスルノ公文ヲ交換シ置キタキコム

## (別電III)

三月三日松井外務大臣在英國林大使宛電報第六八号  
日英通商条約第二十一条 第二十六条及ビ第二十七条ノ追加  
乃至修正条項

一一五 三月十一日 在英國林大使  
松井外務大臣宛 (電報)

## 条約改訂ニ關スル我方方針ニツキ意見具申並

## 一一一請調ヘ件

## 別電I

在英國林大使宛松井外務大臣三月十一日着電  
報第一四二号

英國政府ニ對シ条約第八条付屬表修正ノ希望ヲ  
通告ノ件

II 在英國林大使宛松井外務大臣三月十一日着電  
報第一四二号

条約第七条最惠國待遇条項ニ對スル追加提案

(2)第二十六条第一項 It is understood, however, that the  
stipulations of the present Treaty shall be applied to  
all Japanese possessions and all territories under  
Japanese administration.

(3)第二十七条第二項 As regards the British Dominions,  
Colonies, Possessions and Protectorates to which the

貴電第六五号乃至第六七号ニ關シ  
(電文ノ正解整理ニ多少ノ時日ヲ要シタルモ既ニ夫レモ完  
了シ御來示ノ諸点ニ關スル大体ノ研究モ終ヘリタルニ付畢

備出来次第御訓示ノ次第英國政府ニ申出方取計フヘシ

(二)尤モ貴電第六五号四ノ点ハ別電甲号ノ通取計置キタリ

(三)第八条(廢棄)ニ闊スル合意ニ付テハ川島書記官當國旅

行中英國當局トノ間ニ詰合アリタリトハ云ヘ右會談ハ其ノ

性質全然私的ノモノナリシニ顧ミ當方側トシテハ飽迄右ノ

事実ヲ地歩トシテ先方ノ合意ヲ余儀ナカラシムルコトス

ル訳ニモ行ク間敷右ニ闊シテハ當方側トシテハ極力御來示ノ

趣旨ニ副フ様努力ハスヘキモ其ノ辺ノ情報ハ予メ御含置キ

ヲ請フ尚御來示ニ依レハ本年八月三十日限り消滅スルコ

トヲ合意ノ基礎トスヘキ旨ナルカ右ハ本件申込ヨリ六ヶ月

以上ノ余裕ヲ置クコトトスル方我方主張貫徹上利益ト認ム

ルヲ以テ反対ノ御來示ナキ限リ同条ヲ本年九月三十日限り

消滅セシムルコトニ改メ提議スヘキニ付右御承知置キヲ請

フ

(四)本使ハ閔東州内若ハ鐵道付屬地内ニ於テ生產若ハ製造シ

タル物品例ヘハ鞍山站ノ鐵閔東州產桐油等カ内地移入ニ當

リ現在ノ如ク普通稅率ヲ支払フコトニ代ヘ特別ノ待遇ヲ与

フルノ必要ヲ感スル次第ナル處現在ニ於テハ日英條約第七

条第一項ノ如キ規定存スルニ依リ右特惠ヲ與フルコトヲ得

為念

(別電一)

在英國林大使堀松井外務大臣宛三月十一日着電報第一四一号  
英國政府ニ對シ日英通商條約第八条付屬表修正ノ希望ヲ通告  
ノ件

トノ間ノ條約中ノ同様ノ規定ニ同様ノ変更ヲ行フ必要アル  
コトハ勿論ノ儀ナリ

ルコトトシ差支ナシト信ス就テハ之等ノ事情篤ト御考量ノ  
上何分ノ儀折返シ御回示相成度シ尤モ本項ニ申進スル点ハ  
實ニ日英條約丈ケノ改正ニテ足ルモノニアラスシテ他列強  
トノ間ノ條約中ノ同様ノ規定ニ同様ノ変更ヲ行フ必要アル  
コトハ勿論ノ儀ナリ

サルモノト本使ニ於テハ承知シ居レリ

事情果シテ右ノ如シトセハ今回條約ノ改正ニ際シ此事態ヲ  
変更スル様試ミルコト得策ト思考セラルニ付之カ為御來  
示ノ諸点ト共ニ日英條約第七条第一項ニ別電乙ノ通り追加  
スルコトヲ提議スルコト致シタシ尤モ右案ハ急速立案シ  
タルモノニ係ルヲ以テ更ニ文字ノ推敲等ノ必要有之ヘキモ  
要スルニ當方主張ノ要点ハ我行政ノ下ニ在ル地域内(租借  
地鐵道付屬地及委任統治地域ヲ含ム)ノ製造又ハ製產物品  
ニ特点ヲ与フルノ余地ヲ存スルニ在リ併シ当初ヨリ右ノ点  
而已ニ闊スル規定トスルニ於テハ目立チ過クルヲ以テ殖民  
地ヲモ併セ列舉スルコトトシタルモノニシテ英帝国内ノ製  
產若クハ製造ニ係ル物品ニ對シ英本国及其各領土ニ於テ他  
ニ均霑ヲ許ササル特惠制ヲ設クルハ既定ノ事實ニモアリ又  
如何ニ本邦側ニ於テ焦慮スルモ阻止シ得サル目下ノ情勢ナ  
ルニ付我ニ於テ公然之ヲ認ムルモ實質上何等不利益ノ新事  
態ヲ生スル訳ニアラサルニ顧ミ茲ニ併セ列記スルコトトシ  
タル次第ナリ尤モ英國側ニテハ委任統治地域外ハ當然ノコ  
トニシテ規定ノ必要ナシト云フモ知レサルカ其場合ニハ之  
等殖民地ノコトハ削除シ行政下ニアル地域而已ノ規定トス

第一四一号(別電甲)

十一日岡本ヲ外務省ニ派シ帝國政府ニ於テ本件條約付屬表

ニ修正ヲ加ヘムコトヲ希望スルコト及本公文ヲ以テ同條約  
ノ件

第八条ニ規定スル右希望ノ通告ト看做スヘシトノ趣旨ヲ認

メタル同日付公文ヲ極東部長ニ手交セシムルト共ニ右公文  
ハ形式ニ於テハ付屬修正ノ提議ナルモ右ハ付屬表從テ第八

条ヲ廢棄セントスルノ趣旨ニ出スルモノニシテ帝國政府ニ

於テハ付屬表ノ具体的の修正案ハ提出スルコトナカルヘキコ  
ト現行條約規定ノ範囲内ニ於テ行動スルトスレハ右形式ニ

(別電一)

在英國林大使堀松井外務大臣宛三月十一日着電報第一四二号  
條約第七条最惠國待遇条項ニ對スル追加提案

タル趣ナリ

右極東部長ニ手交ノ公文郵送ス

第一四二号(別電二)

在英國林大使堀松井外務大臣宛三月十一日着電報第一四二号  
條約第七条最惠國待遇条項ニ對スル追加提案

It is understood, however, that articles, the produce  
or manufacture of dominions, colonies, possessions,  
protectorates or territories, under the administration of

四 日英通商航海条約改定交渉 一一六

一四六

one of the High Contracting Parties, which are imported into the territories of that High Contracting Party, should not be held to be articles of foreign origin.

~~~~~

一一六 三月十八日 松井外務大臣ヨリ

在英國林大使宛（電報）

条約第八条失効期限及ビ鉄道付屬地生産物特

遇ニ関シ回訓ノ件

第九七号

貴電第一四〇号乃至第一四二号ニ関シ

(一) 貴電第一四〇号(二)第八条失効期ヲ本年九月三十日トセラルコト異議ナシ尚御交渉ノ模様ニヨリテハ往電第六五号(三)中段申進シタル通更ニ相当期間延長スルコト差支ナキモ其ノ最長期間ハ第八条第三項ニ依リ廃棄セシムル場合ヨリ長カラサルコト即チ貴電第一四一号公文ノ日付ヨリ起算シ遅クトモ明年三月十日以前ニ於テ協定セラレタシ

(二) 貴電第一四二号ニ関シ実ハ条約改正調査委員会ノ決議ニ基キ閣議ニ於テ来ル条約改正ヲ機トシ帝国ト密接ナル経済関係ヲ有スル地域ノ生産物ニ対シ特遇ヲ設ケ得ヘキ措

置ヲ講スヘキコトト成リ居レルニ付現行日英条約第二十五条ニ新ナル例外ヲ追加シ南滿州生産貨物全部ニ対シ特遇ヲ為シ得ヘキ規定ヲ設ケムカトノ義モアリシモ斯くてハ帝国政府ニ於テ南滿州ヲ依然特殊勢力範囲ト目スルモノナリヤノ誤解ヲ英國政府ニ於テ為ス無キヤヲ慮リ今次ノ改正ニ於テ往電第六五号(六)ノ通り亞細亞大陸諸国ニ於テ現ニ實行シ居ル要求ヲ為スコトニ止ムルト共ニ閑東州及委任統治地域生産物ニ対シテハ往電六七号四末段ニ依リ之ヲ条約適用区域ニ包含セシムルコトトン其ノ当然ノ結果トシテ之等帝国行政権ノ下ニ在ル地域ノ生産物ニ対シテハ本邦ヘノ輸入ニ当リ外国製產品ト看做サアルコトニ解釈セムトスル意向ナリシカ客年貴電第七九〇号御申越ノ次第モアリ將又付屬地生産物優遇ニ付テハ南滿鉄道会社ハ勿論在滿企業者ニ於テ熱望シ居ル次第モアレハ貴見ノ通り此ノ機會ニ之ヲ閑東州生産物ト同一視シ外国语生産物ト異ル待遇ヲナシ得ヘキ余地ヲ留保スルコトニ付英國政府ノ同意ヲ求メラル様努メラレ度シ尤モ本件英國政府ヘ御説明ノ場合ニハ前記滿州ニ於テ帝国ノ有特殊地位又ハ鉄道付屬地行政権ノ性質ニ対スル帝国ノ主

張ニ対シ英國政府ノ確認ヲ求ムルカ如キ感想ヲ英國政府ニ対シ与ヘサル様精々御注意アリ度ク現ニ付屬地ハ本邦法規上閑東州ト均シク閑東州管轄地域ト為シ居リ同地域ニ於ケル企業及生産物ハ付屬地外一般支那生産物ト課税其ノ他種々ノ関係ニ於テ全ク異リタル立場ニ在ル事情ヲ適宜説明スルニ止メラレタシ

(三) 然ルニ前記ノ如ク我ニ於テ付屬地生産物ニ対シ優遇ヲ設

ケ得ヘキ措置ヲ講スルコトニ閑ソ貴電第一四二号ノ形式ヲ採ルトキハ帝國委員ニ於テ国際連盟諸會議ニ於テ屢次繰返シ居リタル主張即チ苟モ國際連盟ノ一員タル以上ハ

仮令英國自治領等ト本国トノ関係ニ於テモ通商平衡待遇ニ関スル連盟規約第二三条ホ号ノ適用アルヘキコト即チ

英國ト英國自治領トノ関係ハ必シモ外國相互間ノ関係ト同視スルヲ要セサルモ之ト同時ニ各連盟ノ一員タル点ニ於テ或程度ノ義務ヲ免ルヘカラサル旨ノ主張ヲ撤回シ

タルヤノ外觀ヲ呈シ面白カラサルニ付寧口第八条ニ対シ貴電ノ如キ修正ヲ施ス代リニ前記往電第六四号四末段「管治スル地域」内ニハ閑東州委任統治地域ノ外閑東厅行政権ノ延長シ居ル程度ニ於テ鉄道付屬地ニモ適用アル

大便ヘ郵送アリタシ

一一七 三月二十一日(着)

在英國林大使ヨリ

松井外務大臣宛（電報）

条約改訂ニ關シ英國外務省ヘ通報ノ件

付記一

三月二十一日付在英國林大使発マクドナルド外

務大臣宛通商條約改訂ニ關スル公文寫

二 右公文付屬條約改訂ニ關スル我方提案覺書寫

三 右條約改訂提案ニ關スル説明覺書寫

第一七〇号

往電第一四〇号(一)ニ關シ

二十一日付ヲ以テ貴電第六五号(一)以下及第六七号六乃至八

ノ要点ヲ公文ニ認メ貴電第六七号一乃至四及第六八号本件

条約改正案（覺書a）並ニ右改正提案ノ趣旨ヲ簡単ニ説明

シタルモノ（覺書b）ト共ニ同日外務省ニ送付済ミ

和公文及賞罰等郵類く

在歐州各大使、在米大使、諸君等

(本編 I)

11月11日 本日在英國林大使宛々シテ外務大臣根

興語條約改訂ノ聞ベル公文等

Japanese Embassy.

London. W.

March 21st, 1924.

Sir:

Under instructions from my Government, I have the honour to inform you that my Government have come to a decision to propose to the Governments of countries who are parties to the Commercial Treaties with Japan, of which the original periods of operations have already expired, that arrangements should now be made, with a view to retaining the provisions of those Treaties with certain amendments which they deem necessary, instead of seeing them terminated.

2. I am accordingly instructed to submit to the most

and India, signed at Tokyo, August 29, 1904, so as to comprise matters concerning entry and residence in the respective territories, as well as matters regarding industry and navigation.

4. The Japanese Government also desire to conclude with the Government of Canada a tariff convention with a view to the advancement of the commercial relations between the two countries.

5. Furthermore, I am directed to express the earnest desire of the Japanese Government that the Commonwealth of Australia, the Dominion of New Zealand and the Union of South Africa may be able to see their way to adhere to the Anglo-Japanese Commercial Treaty. In order to facilitate this, the Japanese Government are prepared to accept certain exceptions which may be proposed by any of the Governments of those British Dominions to the general application of the provisions of that Treaty, so long as the most favoured nation treatment as regards entry, residence, industry,

favourable and sympathetic consideration of your Government the amendments set forth in the Memorandum (A) attached to this note, which my Government propose to make, in the form of a Treaty or Agreement, to the Treaty of Commerce and Navigation, between Great Britain and Japan, signed at London, April 3, 1911. In this connection, the attention of your Government is specially invited to the fact that the original period of operation of this Treaty expired on the 16th July last, while on the other hand great changes have been brought about through the War in the economic conditions of the world. The considerations that prompted my Government to propose these amendments are stated in Memorandum (B) attached to this note.

3. I beg to inform you further that it is also desired by my Government that this opportunity should be taken of extending the scope of the Convention relating to the Commercial Relations between Japan

customs duties and vessels is assured. They are moreover, prepared to enter into some understanding with each of them with regard to the restriction of immigration, in a manner similar to the existing arrangements between Japan and Canada. I should therefore be grateful, if you would be so good as to communicate the above desire of my Government to the Governments in question.

6. If any of the Governments concerned have no objection in principle to the proposals mentioned in the foregoing paragraphs, from 3 to 5, it would seem expedient that negotiations in details should be left to the Japanese Consular Official at Calcutta, Ottawa, Sydney or Cape Town, and the Representative of the local Government.

I have the honour to be, with the highest consideration,

Sir,

Your most obedient Servant,

The Right Honourable  
(Signed) Hayashi

James Ramsay MacDonald, M. P.  
Secretary of State for Foreign Affairs,  
Foreign Office.

(支那)

支那通商航海条約の方提携の意

(支那)

支那通商航海条約の方提携の意

- Memorandum (A)**
- The Amendment proposed by the Japanese Government to the Treaty of Commerce and Navigation between Great Britain and Japan, signed at London, April 3, 1911.
- Article VIII and the schedule annexed to the Treaty should cease to be operative after the 30th September, 1924.
  - At the end of Paragraph 1 of Article XXI the following words should be added:— “under the condition of reciprocity, if such condition

applicable,” and before the words “in virtue of Article 26.....”

(支那)

支那通商航海条約の方提携の意

**Memorandum (B)**

Brief Explanation on the proposed Amendments of the Japanese Government.

- Article VIII of the present Treaty and the Schedule annex thereto were formulated solely in deference to the strong desire expressed by the British Government at the time of the conclusion of the Treaty, but the Japanese Government have from the outset always found them to be of great disadvantage to Japan. Indeed, they could have abrogated the Article and the Schedule whenever they pleased, but they have refrained from doing so until after the expiration of the original period of operation of the whole Treaty, regard having been paid to the wishes of the British Government. In these circumstances,

- and now in view of the great changes in the economic conditions throughout the world, which might almost be called revolutionary, it is earnestly hoped that the British Government will be able to see their way to consent to conclude a separate Agreement, making this Article and the Schedule inoperative after a period of about six months from the date of this proposal.
- The Japanese Government are now in the course of studying the advisability of allowing coasting trade to foreign ships under the condition of reciprocity. The Amendment (2) is proposed in the hope that a decision to this effect may be come to in future. In that event, it is the intention of the Japanese Government to open negotiations first with the British Government on the subject.
  - The Amendment (3) is proposed in order to reserve a freedom similar to that enjoyed by some other Powers in relation to special tariff concessions which

is required by the laws of the country or by the terms of an arrangement by which special concessions in that respect may be granted to any third country.”

- In Article XXV the words “within a limited zone on each side of the frontier” should be suppressed, and the words “so long as such concessions are not extended to any other country” should be inserted instead thereof.

- To Article XXVI the following paragraph should be added:—

“It is understood, however, that the stipulations of the present Treaty should be applied to all Japanese possessions and all territories under Japanese administration.”

- In Paragraph II of Article XXVII the words “and also as regards all Japanese possessions and territories under Japanese administration to which the present Treaty is applicable” should be inserted after the words “the present Treaty may have been made

may be granted to frontier traffic, with the object of encouraging regional economic relations. The Japanese Government are seeking no exceptional privilege beyond what other Powers are enjoying.

4. The Amendment (4) is proposed in order to make clear that Chosen, Formosa, the South Saghalien, the Leased Territory of Kwantung and the railway zone attached thereto, over which the administration of the Government of Kwantung extends, as well as the territories under the Japanese Mandate, are within the scope of the present Treaty, and to claim at the same time that, so far as the present Treaty is concerned, these territories will be treated in every respect on exactly the same footing as Japan Proper. For instance, articles, the produce or manufacture of these territories, will not be held to be "articles of foreign origin", provided for in Article VII.
5. The Amendment (5) is proposed to make the provisions of Article XXVII entirely bilateral.

往電第一七〇号より閲シ第八条及付屬税表廢止合意ノ関連ノ帝国側ニ於テ國定關稅改正（少クレモ右付屬税表ノ物品ニ付）ノ意図アリヤ否ヤ先方ヨリ質問スヘシト信スヘキ事由アルニ付貴電第六五号中（）ノ次第以外右ニ閔スル政府ノ御意向ヲモ承知シ置キ度シ本使トシテハ此ノ一両年内ニハ変更ノ意図無キ事ヲ言明シ得ハ好都合ト思料ベ

一一九 二月二十九日（着） 在英國林大使ヨリ  
松井外務大臣宛（電報）

#### 條約第八条付屬税表廢棄後ノ税率協定ニ關ハ

意見具申並ニ政府ノ意向問合セノ件

第一七八五號  
往電第一七四号ニ閔シ、現行付屬税表ノ廢棄ハ英國側カ合意廢棄ヲ同意スルト否トニ拘ハラス往電第一四一号ノ手段ヲ取リタル以上ナラ消滅セシムルヲ得ルハ勿論ナルカ堵テ

其ノ結果ハ英國ハ何等我国ニ於テ税率上特惠ヲ得サル事トナリ此ノ事態ハ帝國ニ於テ何レノ国トモ税率協定ヲ遂ケラレサル御方針ナラハ可ナルカ貴電第六六号ノ四ヨリ推察スル時ハ仏、伊等トノ間ニハ今回ノ改訂（脱）ニ於テモ何等関稅協定ヲ遂ケラル御意向ナルヤニ見ヨル処果シテ然ラハ仏、伊等ノ製造品ニ対シテハ税率上特惠ヲ与ヘ英國ニ対シテハ偶々自由貿易主義ノ国ナルカ故ニ何等特惠ヲ与ヘス即チ関稅待遇上英國ノミナ「デスクリミニエート」セラレル事トナリ英國側ニ於テ到底承諾セサルヘキ処ト存セラルノミナラス從來ニ於ケル日、英間特殊ノ国交上右ノ如キ事態ハ大ニ考慮ヲ要スト思考セラル就テハ本条約改正ノ討議ニ入ルニ先立チ本使ニ於テ右ノ点ニ閔スル帝國政府最後ノ御決心ヲ特ニ承知致シ置度シ

本使ノ意見トシテハ現在ノ付属表ハ之ヲ廢止スルトシテモ列国トノ振合上英國ニ対シテモ関稅率上或程度ノ満足ヲ与フルコトヲ政府ニ於テ考慮セラルルコト必要ニシテ而シテ当國ノ如キ自由貿易主義ノ国トノ間ニ於テモ何等カノ形式ノ下ニ於テ相互主義ノ基礎ニ於ケル稅率協定ノ方法無キニテラサルシト思考ス就テハ右ニ閔シ今ヨリ考究ヲ遂ケ置

#### 條約第八条付屬税表廢止後ノ税率協定ニ關ハ

第一七八六號

一一〇 四月五日 松井外務大臣ヨリ  
在英國林大使宛（電報）

回報ノ件

（）貴電第一七四号及第一八五号ニ閔シ既ニ往電第六五号（）ヲ以テ申進シタル通り前々内閣ニ於テハ客年八月頃財政経済調査会小委員会ニ於ケル關稅定率法改正案ニ対スル調査一段落ヲ告ケタルヲ機會ヘシ（尤モ前記調査会總会ニ於テ正式ニ之ヲ可決シ政府ニ上申シタルハ數日前ノコトニ過キス）更ニ關係者部内ニ於テ一委員会ヲ組織シ成ルク去十二月ノ議会ニ提出セシムヘキ見込ヲ以テ定率法改正案編成ニ取り掛ラシメタリシヤ一、一回ノ会合ヲ

重ネタルニ過キサル内ニ去九月ノ大震災ニ遭遇シ前内閣ハ多数ノ物品ニ対シ臨機無税輸入ヲ許与スル等ノ必要ヲ生シ続ヒテ現内閣成立トナリシモ関税率法ノ根本的改正ニ付テハ震災後ニ於ケル經濟上ノ変動ヲモ考量シテ更ニ充分ナル研究ヲ要スルモノアリ從テ日下ノトコロ来ル十二月開催ノ通常議会ニ提出スルノ運ヒニ至ルヘキヤ否ヤスラ決定スルヲ得サル次第ナリ就テハ乍遺憾貴電末段其他何等将来ニ於ケル帝国ノ立法ニ拘束ヲ加フルコトトナルカ如キ言明ハ固ヨリ出来サルモ本邦ノ一般經濟事情トシテ米国等ニ於ケルカ如キ極端ナル保護主義ハ到底採用シ得サルハ現行関税率法実施後十数年ノ間に涉リ殊ニ其ノ間物価ニ於テ非常暴騰アリシニ拘ラス部分的改正ノ外行ハサリシ事態並ニ現ニ多数ノ実業家ヲ包含シ組織セラレタル財政經濟調査会ノ答申ニ於テスラ協定物品等ニ対シ大体ニ於テ現国定税率算出ノ基礎従価率ヲ維持セントスルニ止リ甚タシク之ヲ引上ケントスルノ傾向ナカリシ実情ニ微スルモ英國政府ニ於テ看取スルニ困難ナラサルヘク殊ニ現行協定税率ノ廃止ニ対シテハ既ニ申進シタル通り充分ナル猶予期間ヲ置カントスルモノナルニ付

商人等ニ於テモ協定税率廃止ニ対スル準備ヲ為シ得ヘシト思考スルニ付此ノ際往電第六七号一、所載方針ノ通り一旦協定税率ヲ全廢セシムルコトトシ将来彼我共對手國ノ國定税率改正引上ヶ等ノ為メ其ノ輸出品カ甚タシク影響ヲ受クルノ惧アルカ如キ場合ニ至リ始メテ之ヲ緩和スル趣旨ノ交渉ヲ開始スルコトニ止メタシ

蓋シ對手國将来ニ於ケル國定税率改正ヨリ生スル影響ニ付危惧ノ念ヲ懷キ居ルハ英國政府ニ於テノミ然ルニ非ス本邦ニ於テモ英帝國關稅制度ノ實施其ノ他ニ基キ對英本邦輸出品カ多大ノ影響ヲ蒙ルナキヤニ付常ニ危惧ノ念ナキニハアラサルモ往電第六五号(三)中段ニモ申進タル通り到底彼我ニ採リ満足ナル協定ニ到達シ難キヲ見越シ寧ロ此際ハ兩國トモ将来ノ立法ヲ拘束スヘキ提議ヲナサス両國トモ對手國ノ誠意ニ委任スルコトシタキ趣旨ナリ(二)尚貴電第一八五号ニヨレハ日本ニ於テ仏伊等トノ税率協定ノ計画アルニ拘ラス英國ニ対シテ之ヲナササルハ英國ニ対シテ酷ナリトノ御意見ナル如キモ英國ハ米仏伊露等閔税率ノ本邦ヨリモ遙ニ高キ諸國ニ対シテモ常ニ單純ナル最惠國待遇ノ交換ヲ以テ満足シ居リ又英國ヨリノ輸

入品ハ米仏伊独等ヨリノ輸入品タル石油、薰香類、酒、染料等本邦ニ於テ高稅ヲ受クヘキ性質ノモノト異リ鉄

材、綿織物、毛織物、機械等主トシテ本邦ニ於テ生産ナ

キカ又ハ充分生産ノ見込ナキ必要品ナルヲ以テ關稅協定

ナキ場合ニモ重稅ヲ受クルノ惧ナキモノナルカ故ニ仏伊等ヨリノ輸入品ニ比シ不利ナル待遇ヲ受クルノ虞ナカル

ヘシ換言スレハ仏伊西等ヨリノ輸入品ハ協定税率ヲ受ケ

英國ヨリノ輸入品ハ國定稅率ヲ受クルコトナル場合ニ於

テモ前者ノ方却テ後者ヨリモ高率ノ關稅ヲ受クルコト、

事態ナルヲ以テ若シ英國ニシテ本邦ニ対シ其ノ自由貿易

タルヲ名トシ稅率協定ヲ要求セムカ之甚本邦ニ採リ酷ナ

リト云ハサルヘカラス

(三)貴電第一八五号末段ニ關シテハ日本トシテハ其ノ輸出品

ノ為将来ノ立法ニ付相当ノ保障ヲ採リ置クコトハ主義ニ於テ異議アルニ非ルニ付先方ヨリ完全ナル相互ノ基礎ノ

下ニナル提案アラハ固ヨリ慎重ニ之ニ考量ヲ加フルコト

差支ナキモ前記申進タル通り右完全ナル相互ノ形式ヲ見

出スコトノ困難ナルハ現行條約改正ニ於ケル經驗ニ徵スルモ明白ナレハ英國政府ヲシテ右ニ対シ左シタル希望ヲ

一一一 四月五日(着)

在英國林大使ヨリ  
松井外務大臣宛(電報)

#### 條約中ノ British Vessel 等ノ字句ノ解釈ニ 關シ回示方要請ノ件

第二〇四号

往電第一九九号ニ關シ

日英條約第二一条等ノ British Vessel ナル文字ハ單ニ英國ニ船籍ヲ有スル船舶ノミナラス同條約適用区域外ノ自

治領等ニ船籍ヲ有スル船舶ヲモ含ムモノト從來帝國側ニテ

ハ解釈シ御取扱ノコトト存スル処今後モ右ノ解釈ヲ変更セ

ラレサルモノト解シ先方ト應対シ差支無キヤ大至急御回示

ヲ請フ、Subjects of each H. C. P. ニ就テモ同様ナリ、

本使トシテハ多少理屈ニ合ハサルモ目下ノ處広ク解釈スル

ノ外無シト存ス

一一一 四月八日(着)

在英國林大使ヨリ  
松井外務大臣宛(電報)

#### 條約第八条及ビ同付屬表廢棄ノ期限ニ關スル

件

第二〇五号  
往電第一九九号ニ関シ

四月七日第二回会議商務省ニ開催出席者先方極東部長ヲ除キ商務省關稅副主任 Wells 加ハリ他ハ前回ノ通り我方徳川ノ外記録係トシテ大熊出席岡本不快ノ為欠席

第八条ニ關シ之ヨリ先前回ノ節「ファウンテン」ハ本使ニ對シ曩ニ川島來談ノコトヲ良ク記憶シ居ル旨ヲ述へ会後「クロウ」モ同条問題ハ左シタル難関ニアラサルヘシトノ意ヲ洩シ居タルカ右第二回会議ニ於テ先方ハ同条及付屬表廃棄自体ニ同意ノ旨ヲ聲明セリ尤モ期限ヲ九月三十日ニスルコトニハ絶対不同意ヲ表シ日本政府ノ意向強固ナルヲ知レル上徒ニ同条第三項所定ノ商議ヲ試ムルノ要ナキハ勿論ニシテ從テ同条廃棄ノ為別ニ條約又ハ協定形式ヲ取ルニ異議ナキモ同条第三項ニ依ル最短期間ヨリ更ニ短き期間内ニ消滅セシムルニハ英國商人ニ対シ第八条第三項ノ結果少クトモ一ヶ年ノ猶予アルヘキコトヲ從来言明シ居ル政府ノ立場上又期間短カケレハ短き程徒ニ見越輸入ヲ獎励シ實際上不自然ナル不便不利ヲ來スヘキヲ惧ル見地ヨリモ亦同意シ兼ネル（脱）ナルヲ力説シ少クトモ明年三月三十一日限

第三項ニ依リ廃棄セムコトヲ申出スルニ帰着スヘク次回ノ

會議ニ於テ我方ヨリ前記徳川陳述ノ理由ニ依リ例へハ明年

一月一日ヨリト言フ如キ妥協案ヲ提出シ見ルモ一法ナルヘ

キモ之亦先方ヲ説服シ得ル望ナキノミナラス右理由ハ実ハ

我方ノ意向明瞭ニシテ第八条第三項ニ依ル抗議ノ余地ナキ

コト明ナル実際ニ適スルモノトハ申シ難キコト勿論ナル以

上斯ル小刻ミノ讓歩ハ之ヲ避ケ次回ニハ我方ハ本使ヨリ帝國政府ニ經伺ノ結果英國政府カ該条廃棄事態ニ立所ニ同意シタルニ鑑ミ期間ニ就テハ帝國政府ニ於テ枉ケテ先方申出ノ趣旨ニ同意スヘキ旨ノ訓令ニ接シタル趣賁電第九七号（）ノ趣旨ニ依リ声明スルコト致スヘキニ付御承知置ヲ請フ尤モ期日ニ就テハ往電第一四一号公文ノ日付ヨリ起算スヘキコト当然ナレハ（此点ハ直ニ讓歩ノ用意アルコトヲ示スヲ避ケ徳川ニ於テ態ト応答セサリシ次第ナリ）右ハ三月十日ト確定スル様勧説スルコトスヘシ他ノ点ニ就テハ別ニ電報スヘキモ本件第八条廃棄問題主義上確定シタルニ付先ソ以テ電報ス

リトセソコトヲ提議シタルニ付我方ハ帝國政府ノ訓令ヲ動カス結果トナル提議ニ即答ヲ為スヘキ地位ニアラス蓋シ帝

国政府提議ノ趣旨ヲ案スルニ成ル程英國商人ニ對スル思惑ハ諒解ニ難カラサルモ第八条第三項ニ依リ第一ノ通告後ノ六ヶ月ハ交渉ノ余地ヲ存スル為ノ期間ニシテ其間ハ同条ノ

廃棄確定的ナラス確定ノ通告ハ即チ六ヶ月後ニ於ケル第二ノ通告ニシテ該確定的通告後該条消滅ニ至ル期間ハ六ヶ月ナリ然ルニ今若シ直ニ別ニ該条消滅ノ取極ヲ為シ得ルニ於テハ直ニ之力廃棄確定的トナルコト前ノ場合ニ於ケル第二ノ通告ト同様ナリ

之ヲ以テ本提議ニ依ル別個ノ取極成立後約六ヶ月ヲ以テ充分ト認メタルモノニシテ何レニセヨ第一回通告後ノ未確定期間六ヶ月ト第二回通告後ヲ合ハセタル十二ヶ月ヲ今直ニ確定後ノ期間トスルハ長キニ失セザルヤトノ趣旨ヲ以テ応酬シ結局我方ハ先方陳述ノ趣旨ヲ問違ナク聽取シ得タル心算ニ付本使ニ報告ノ上次回更ニ何分ノ意見ヲ述フヘキ旨ヲ告ケ置キタリ

然ルニ此点ニ關スル先方ノ態度右ノ如クニシテ到底承服ノ見込ナク此点ニ關スル解決付カサレハ結局先方ヨリ第八条

一一一 四月十日 松井外務大臣ヨリ  
在英國林大使宛（電報）

### 条約中ノ British Vessel 等ノ字句ノ解釈二

#### 第三三四号

#### 貴電第一〇四号ニ關シ

（）British Vessel ノ字義ニ關シ從來ハ英本国ニ船籍ヲ有スルモノト然ラサルモノトノ間ニ我ニ於テ取扱上何等區別ヲ為ササリシ処右ハ必スシモ條約適用區域外ノ自治領ニ船籍ヲ有スル British Vessel モ條約上ノ権利ヲ有スルモノトノ解釈ヲ採リタルカ為ニアラサルモ我ニ於テハ事實上條約船舶ト然ラサルモノトノ間ニ何等取扱上ノ差別ヲ行ヒ居ラス又條約適用區域外ニ船籍ヲ置クモノ例へハ濠州等ノ船舶ハ日本ニ來ルコトナカリシカ為メナリ

（）然ルニ現行日英条約上ノ権利ヲ享受スヘキ British Vessel トハ何ゾヤノ問題ハ同條約第十八条ノ解釈ニヨルノ外ナキ處同条ニヨルニ British Law ムハ英本国ノ法律ニヨリ英國船ト認メラルモノトナリ居ルカ故ニ何ヲ英國船ト云フヤハ一八九四年ノ Merchant Shipping Act ニヨリ決

スヘキモノナルヘク從テ同 Act 第四条ニヨレハ British Vessel トハ英本国及「クラウン、コロニー」ニ船籍ヲ有スルモノニ限ラレ自治殖民地ニ船籍ヲ有スルモノハ右ノ中ニ包含セサルヤニ解セラル而シテ右ノ如ク解釈スルハ客年成立シタル日英満載吃水線取極ニヨリ自治領ヲ除外シタル事例並客年十一月「ジュネーヴ」開催ノ第二交通総会ノ際港ノ条約ニ関スル小委員会（巴里ヨリ転電スヘキ奥山代表來電第二四号参照）ニ於テ英國委員ノ言明ニモ徵シ不当ナラサルベシト思考セラル

（三）尤モ差当リ我ニ於テ本電冒頭記載ノ如ク前記第十八条ノ British Vessel ト然ラサルモノ將又條約国船舶ト然ラサルモノトノ間ニ區別待遇ヲ設クル所存ナク又本邦トシテハ本件ニ關シ他列國同様ノ寛大ナル解釈ヲナスコトニ異議無之付今次ノ交渉ニ於テハ寧ロ第十八条ノ解釈問題ニハ強ヒテ触レサルコトトシ右ハ國際連盟其他ノ會議ノ際又ハ沿岸貿易ノ相互開放等具体的ニ之ヲ決定スルノ必要アル場合ノ特別協定ノ際ニ讓ルコトト致シタシ

（四）Subjects ニ関シテモ從来ニ於テハ敢テ條約適用区域ノ内外ヲ問ハス實際上同一ノ取扱ヲ為シ來リタルモ解釈問題

フルニ付本件ニ關シ既ニ彼我ノ間ニ協定ヲ得タル上ハ本件ハ他ノ交渉案件ト分離シ之ヲ公式ニ發表スルコトト致度ク而テ本件第八条ヲ消滅セシムルコトハ單ニ第三項ノ手続ヲ省クコト即チ條約規定ノexecution ノ範囲ニ屬スルモノト見得ルヲ以テ單純ナル公文交換又ハ少クトモ批准ヲ要セサル協定ノ形式ニ依リ之ヲ實行スルコトト致度シ尤モ我方ニ於テハ此種公文ノ交換又ハ協定ト雖モ多分枢密院ニ諮詢セラルコトナルヘキニ付右交換公文成案又ハ協定案協定ノ上電報相成様致度シ尚貴電第一八七号公表ノ件ハ彼我ノ間ニ妥協ヲ経タル以上之亦可成速ニ實行シ度キニ付右公表ノ時期及其ノ要旨先方ト打合セノ上是亦電報相成度シ當方ニ於テハ本件交渉ノ内容ハ未タ全部嚴秘ニ付シ居レリ為念

一一五 四月十日（着） 在英國林大使ヨリ

沿岸貿易ニ於ケル最惠國待遇ニ關スル商議ノ

大要報告ノ件

第一〇六号

往電第一〇五号ノ続キトシテ四月七日條約改正會議（脱）他ノ事項ニ關スル商議ノ大要左ニ電報ス

トンテハ條約ノ適用区域ノ住民タルト然ラサルトニヨリ区別ヲ設クルコトト為シ置キタシ尤モ第一条第五号即チ不動産ノ取得占有ニ關スル自由ニ付テハ國法ニ於テ如何ナル条件及制限ヲ設クルコトモ差支ナキヲ規定シ居ルニ付他ノ一般ノ場合ヨリモ一層條約適用区域タルト然ラサルトニヨリ区別ヲ設クルコト差支ナカルヘシ

本電為参考在欧各大使及連盟事務局へ郵送アリタシ

一一四 四月十日 松井外務大臣ヨリ  
在英國林大使宛（電報）

條約第八条及ビ同付属表消滅ノ期限及ビ消滅

セシムル形式ニ關シ訓令ノ件

第一三五号

貴電第二〇五号ニ關シ

三月三十一日ヲ以テ消滅セシムルコトニハ當方ニ於テ同意シ難キニ付貴見ノ通り是非三月十日ニ同意セシメラレタシ而テ本条ノ消滅ハ彼我商人ニ於テ利害關係大ナルモノアル處本件以外ノ諸問題ニ關シテハ交渉尙時日ヲ要スル義ト考

（一）沿岸貿易ニ關シ先方ヨリ reciprocity ノ意義ニ付質問アリタルニ付貴電第六五号（註）御來訓ノ趣旨ヲ敷衍説明シタル處先方ハ直ニ往電第一〇四号ノ点ニ言及シ日本カ第三国ニ沿岸貿易ヲ許シ且之ヲ相互主義トスル場合自治領中沿岸貿易ヲ許ササルモノノ為メ本件帝国提案採用ノ結果トシテ英國船全部之ニ均霑シ得サルコトトナルヲ怖ルル處此種自治領施設ニ付テハ英本国政府ニ於テ強制シ能ハサル事情ヲ諒察セラレタク右ニ對シ我方ニ於テ如何ナル解釈ヲ有スルヤト質問シタルカ往電第一〇四号末段本使卑見ハ本使最後ノ肚ヲ謂ヘルモノナル一面該往電ニ對スル貴電未接到ノ事ニモアレハ我方ハ其点ニ付キ帝国政府ノ意向如何ヲ承知セス從テ单ニ當座ノ私見ヲ討議ノ資トシテ試ミニ述フルニ過キサル旨ヲ前置キシタル上若シ反対ニ自治領ノ施設ニ付テハ強制ヲ加ヘ得サルカ而カモ自治領ニ船籍ヲ有スル船舶モ他ノ英國船舶同様沿岸貿易ノ利益ニハ均霑スト謂フハ實ハ甚タ不合理ナラスヤト述ヘタルニ對シ先方ハ條約上英國及自治領其他苟クモ英國各領地ノ船舶ハ其船籍ノ所在如何ニ論ナク一律英國船ト称シ差別ヲ設ケサル主義ヲ執リ來リ居ルカ故ニ之ニ異ナル新例ヲ設クルコト困難ナリトノ事情ヲ

詳説シ而カモ「フ・オンテン」ハ我方前記陳述ヲ理由アリ

トシ全然同官限リノ心付キトシテ之ニ適フ如キ趣旨ノ声明

ヲ文書ヲ以テ為ス途ナキニアラサルヘキカト述ヘタルカ

「チャーフマン」ハ英國船舶中ニ船籍地ニ依ル種別ヲ設クル

ノ伝統的ニ困難ナル事情ヲ繰リ返シ右声明ハ余程研究ノ上

ナラテハ英國側ニ於テ之ヲ応諾スルコト能ハサルヘシトテ

寧ロ之ヲ discourage スル口吻ヲ洩シ且英國側トシテハ現

第二十一条規定ニ満足シ居ル旨ヲ述ヘ本件双方ニテ今少シ

研究スルコトトシ一應討議ヲアリタルカ八日 Fountain ハ

リ德川ヘ私信ヲ以テ前日自分ノ声明私案ハ再考ノ結果事態

ニ適合セサルヲ認ムルニ付之亦英國政府及関係自治領政府

ノ慎重考慮ヲ迎ヘタル後ニアラサレハ正式ノ提案トハ称シ

得サル同官限リノ私案ナリト断ハリ現條約第二十一条第一

項前段 according to 並ニ respectively 迎ア according

to their respective laws ム故メ第一項後段 territories of

the other ハ次リ the benefit of this Paragraph will not

be claimed by either party for vessels registered in

any part of the territories of that party in which the

coasting trade is closed to the vessels of the other party

ヲ付加スル案ヲ申越セリ

(二) 第二十五条陸境關稅並ニ現行條約第二十七条殖民地關係

ノ我提案ニ對シテハ先方ハ第二十五条 limited zone ハ々

削除ニ難色アリ又第二十六条及第二十七条ニ付キ租借地ヲ

他ノ帝國領土ト同一視スルノ結果トナルヲ怖ル旨ヲ述ヘ

我方ニ於テ一應陳弁スル處アリシカ時間ノ都合等ノ為メ次

回更リ詳論スルコトトシ何等纏リタルコトナク散会セリ

(三) Chapman ハ英國政府ニ於テモ現行條約ニ對シ若干修正

提議ノ意向アリ日下研究中ニ付提議脱稿次第提出スル考ナ

レハ予メ承知アリタシト述ヘタリ

四次回會議期日未定ナルモ多分今(脱)少ナクトモ今一回

開催シ得ベシ

前ノ私案モ未タ帝國政府ニ報告スヘキ時機ニ達シ居ラサル

コトノ諒解ノ下ニ討議ンタル次第ニテ從テ右第二ノ私案モ

先方ハ單ニ次回討議ノ資料トシテ送リ来レルモノニ過キサ

ルモ御参考迄ニ付記スルリ付キ右ニ付何等御意見アラハ当

方心得迄ニ御回示置キヲ乞フ

一一六 四月十一日 松井外務大臣ヨリ  
在英國林大使宛(電報)

### 沿岸貿易ニ閑スル最惠國待遇ニ閑スル我方提

#### 案ノ趣旨等通報ノ件

第一四〇号

貴電第一一〇六号及ヒ往電第一一二四号ニ閑シ

(一) 貴電ノ(一)前段ニ閑シ我提案ノ趣旨ハ相互主義ニヨリ第三

國ニ對シ沿岸貿易ヲ許シタル場合英本国及直轄殖民地ニ

於テ我船舶ニ之ヲ許ス以上之ニ船籍ヲ有スルモノハ均霑

セシメントスルモノニシテ英國委員ノ意見ノ如ク他ノ自

治領中之ヲ許ササルモノアル限り右英本国及直轄殖民地

在籍船ニモ之ヲ均霑セシメサルノ趣旨ニハアラス又右往

電第一三四号ノ(二)記載ノ通り自治領ニ於テ我船舶ニ之ヲ

許スモノアル場合ハ該自治領カ條約ニ加入セル以上同シ

ク其ノ在籍船ニ之ヲ均霑セシムル趣旨ナリ

(二) 貴電(一)中段 Chapman ノ所謂現行第二十一条ニ満足セル

云々ノ点ニ關シ英本国及ヒ直轄殖民地ニ於テ沿岸貿易ヲ

開放セル現状ヲ繼續スル以上英國船舶ハ我新提案ニヨリ

事實上同等現行第二十一条ト異ル待遇ヲ受クルコトトナ

四 日英通商航海条約改定交渉 一一六 一一七

(四) 貴電(二)陸境關稅及租借地ノ問題ニ閑スル我提案ニ對スル

英國側意見詳細電報アリタシ

一一七 四月十一日(着) 松井外務大臣宛(電報)

條約第八条及ビ付屬稅表消滅ノ期限確定及ビ

四 日英通商航海条約改定交渉 一一八

右双方ニ於テ公表方ノ件

第二一一号（至急）

貴電第一三五号ニ閲シ

十一日ノ第三回会議ニテ第八条及付属税表明年三月十日限  
リ消滅セシムルコトニ確定セリ右ノ事実ハ一日モ速ニ彼我

商人ニ知ラシムルコト必要ナルニ付形式上ニ於テハ手続完  
了シタル次第ニハアラサルカ同条及税表カ明年三月十日限  
リ消滅ノコト事實上確定シタルモノト謂ヒ得ルコトヲ此際

双方ニテ公表スルコトニ決シ英國側ハ十六日（水曜）議會  
ニ於テ之ヲ為ス筈（木曜ヨリ議會イースター休日ニ入ル）

ニ付帝国側ニ於テモ同日右公表ノコトニ御予定アリタシ公  
表文ハ早速外務省ニテ立案當方ト打合セノ上成ルヘク速ニ  
決定スベキニ付其ノ上ニテ直ニ電報スヘシ

一一八 四月十一日（着） 在英國林大使ヨリ  
松井外務大臣宛（電報）

沿岸貿易、陸境関稅、條約ノ適用範囲ニ閲シ

商議ノ件

別電一 在英國林大使発松井外務大臣宛四月十一日着電  
報第一二三号

ニ譲ル事トシ其ノ趣旨ヲ記録ニ留ムル事ニセリ

（三）第二十五条ニ付テハ別電第二一四号ノ通

（四）第二十六条及第二十七条ニ閲シテハ前回ニ引続キ本件提  
議カ何等新規ノ事態ヲ惹起スルモノニアラサルコトヲ貴電  
第六十五号（七）関東州適用ニ閲スル付属公文ヲモ示シ説明シ  
尚鉄道付屬地ハ此点ニ於テ関東州ト異ナルヘキ理由ナキ旨  
ヲモ付言シタルニ英國側ハ之ヲ諒解シ英國トシテモ總テノ

委任統治区域ヲ包含セシメタキ意向ナリ且愛蘭ニ付テハ本

条約ニ依リ自由國トナリタル後ニ於テモ當然適用ヲ受ク次  
第ナルモ同國カ自治領ト同一ノ性質ヲ有スルニ至リタル今

日其ノ意思ニ反シテ迄本条約ヲ適用セシムルコトヲ得サル  
カ故ニ本条約ハ從來ノ關係上愛蘭ニ適用セラルモ愛蘭ハ

本条約ヨリ脱退シ得ルノ規定ヲ設ケタキ希望ナリト述ヘタ  
ルニ因リ右ニ対シテハ帝国政府ニ於テ何等異議ナカルヘキ  
旨ヲ答ヘ置キタリ

徒テ貴電第六十七号（九）ノ次第ハ之ニテ確定即チ一面右愛蘭  
脱退ニ備フル規定ヲ加フルコトトナルヘキト同時ニ愛蘭ニ  
於テ脱退セサル限り本条約ハ同國ニ対シ適用セラルコト

明カトナレリ右案ハ英國側ニテ作成ノ上次回会合前當方ヘ  
脱退セサル限リ本条約ハ同國ニ対シ適用セラルコト

一一一

沿岸貿易ニ閲スル我方修正案

（別電） 在英國林大使発松井外務大臣宛四月十三日着電  
報第二一四号

陸境關稅ニ閲スル討議ノ要旨

第二一一一號

往電第二〇七号ニ閲シ

十一日商務院ニ於テ岡本ヲ加ヘタル外前回ト同シ先ツ

（一）第八条ニ閲シ前回ノ議事ニ引続キ同条及協定率廢棄期間  
ニ付往電第二一一号ノ通決定ヲ見タルカ右合意ハ外務省側  
ト打合セノ上公文交換ノ形式ニテ行フ事トナレリ

（二）第二十一条「ファンデン」ノ試案ニ関連シ我方ハ帝国  
政府ニ於テハ他国ト同一ノ条約ヲ結フ關係上右修正ハ何處  
迄モ其儘ト為シ置度キ意向ヲ述ヘ種々押問答ノ未結局我

方提案ヲ別電第二一三号ト改メテ同条ニ追加スル事ニ一先  
ツ一致シ先方ニ於テ尚研究スルト同時ニ我方ニ於テ右ニ對

スル帝國政府ノ意向ヲ求ムル事（前回本件論議ハ未タ報告  
セサル事ニ成リ居ルニ依ル）ニ決シ「レンプロンチー」ノ  
意義ニ閲シテハ貴電第一三四号ノ次第モアリ此際之ニ触ル  
事無ク将来帝國政府ニ於テ我カ沿岸貿易ヲ開放スル場合

（別電） 在英國林大使発松井外務大臣宛四月十二日着電  
報第一二三号

往電第二一一一號別電

But this benefit will only be claimed under the condition of reciprocity, if such condition is required by the laws of either party, or by the terms of an arrangement with a third party by which special concessions in that respect may be granted to that third party.

（別電） 在英國林大使発松井外務大臣宛四月十三日着電  
報第二一四号

陸境關稅ニ閑スル討議ノ要旨

## 第二一一四号

(別電) 往電第二一二二号(三)ニ閑シ

第二五条ヨリ limited zone 云々ヲ削除スルコトニ閑シ我方ヨリ右地帶ヲ設クルノ結果

(一)右地帶内ノ製產品タルト否トヲ區別スル為メニ地帶ノ外側ニ設備ヲ為ス必要ヲ生シ煩瑣ニシテ右規定ノ活用ヲ實際上不可能ナラシムルコト

(二)朝鮮國境近接地方ニ居住スル鮮人カ國境ヲ越ヘテ支那領土ニ於テ耕作シツツアル農產物ヲ朝鮮ノ自己ノ「ホーム」ニ持チ帰ル場合ノ必要及

(三)英國側ニ關係アル「ビルマ」國境關稅制度ニ閑シテハ地帶ノ制限ナキコトヲ指摘シテ帝國側ニ於テ英國側ト同等ノ自由ヲ享有シ得サルノ理由ナキコト等其他實際上ノ理由ヲ挙ケテ其削除ヲ力説シタルモ先方ハ(一)ノ点ニ付テハ歐州諸國ノ間ニ地帶設定ノ(不明)アルモ實行上何等困難ナシトナシ(二)右ノ為メニハ現在ノ通リ地帶ヲ設ケ置キテモ別取扱ヲ為サントノ大計画ニ基クモノナリトモ認メラレス他方陸

稅上ノ特別ニ不都合ヲ生セサルヘシト駁シ右削除ノ結果國

境貿易上ノ特遇ナル手段ニ依リ露支両國ノ物品而已ニ他國ニ与ヘサル關稅上ノ特遇ヲ與フルコトナリ其英國貿易ニ及ホス影響甚大ニシテ到底之ニ同意シ得スト為シ然ラサレ

ハ只接壤國ニ限ラス英國物品モ陸路輸入ノ場合ニハ接壤國ノ同一又ハ類似ノ物品ト同様關稅上ノ特遇ヲ受クルコトトスルカ二者其一ヲ選フヘキコトヲ英國側ニ於テハ絶対ニ主張セサルヲ得ス但後者ノ場合ニハ第二五条前段トハ全然別意ノ規定トナルヘシト為シ岡本ヨリ實際上洩シ居ルヲ幸ヒ

其再考ヲ為スニ至ラサル間ニ即チ次回會議ニ於テ我ヨリ潔ク英國側ノ主張スル第二ノ「オールタナチブ」ヲ執ルコトヲ申出テ本件ノ結末ヲ付クルコトニ取計ヒタシ大至急何分ノ儀回訓ヲ乞フ

「ビルマ」國境關稅ノ場合ノ利益ハ接壤國タル支那物品而已之ヲ享受シ他國ノ物品ハ均霑セサルモノナルモ斯ル理屈ヲ持出スモ先方ヨシテ其均霑ノ主張ヲ撤回セシムル見込到底無キニ付右ハ御承知置キヲ乞フ尙前記英國側ノ案ハ先方ニ於テ議論ノ為メニ持チ出シタルニ過キスシテ其間何等異議無體的ノ底意ヲ有スル模様ハ毛頭無之リン趣ニ付之亦御含ミ

(別電)

境關稅ヲ海關關稅ト異ラシムルニ止ムル英國側ノ第二ノ「オールタナチブ」トスルモ第一ニハ實際上運貨消費地ノ遠近等ノ關係ヨリ右陸境關稅ノ利益ヲ享受スヘキハ主トシテ接壤國物品タルヘシ第二ニ右陸境特別減稅品若クハ免稅品ノ品目ノ斟酌選定ニ依リ事實上帝國政府現提案ノ趣旨ヲ貫徹シ得ヘシ之ヲ現在ノ規定ニ比スレハ其便否齊壤ノ相違アル次第ニシテ右ニ閑シ英國側好意的考慮ヲ與フルヲ吝マサル可キ口吻ヲノ見地ヨリ事情ヲ指摘シテ我趣旨ノ地方的經濟關係ヲ助長スルニ在ルニ止マルコトヲ述ヘ從テ英國側ニ右ノ如キ危惧ノ念アルニ於テハ limited zone 云々ノ文句削除ノ後ヘ貴電第六五号(六)末尾ノ文句ヲ插入スルコトトシテハ如何ト諧リタルモ取り合ハス先方ニ於テ我提案其儘ニテハ到底之ニ同意スル模様無カリシニ付キ本件ハ次回ノ討議ニ讓ルコトシテ別レタリ

之ヲ要スルニ右ノ点ニ閑スル英國側ノ態度斯ノ如ク強硬ナル而已ナラス其反対ハ大ニ理由アリ從テ英國側ニ於テ如何ニ之ヲ主張スルモ我提案ハ其儘ニテハ其同意ヲ得ルコト目下ノ形勢上絶望(脱)然ルニ貴電第六五号(六)御來示ノ次第ニ依レハ本件改正提案ハ露支両國ノ物品ヲ此方法ニ依リ閑ル件

置キアリタシ為念

一一九 四月十三日(着)

在英國林大使  
松井外務大臣宛  
(電報)

別電 在英國林大使發松井外務大臣宛四月十三日着電報

第一二七号

別電 在英國林大使發松井外務大臣宛四月十三日着電報

別電 在英國林大使發松井外務大臣宛四月十三日着電報

第一二六号(至急)

往電第二一一号ニ閑シ外務省ト打合セスミノ公表文案案ハ別電第二二七号ノ通ナルカ右公表ハ議會ニ於ケル質問應答ノ上ニテ行ハルル事ナレハ一字一句ノ修正無シトハ言ヒ難カルヘキモ趣旨ニ於テハ之以上ニ出スル事無キ意味ニ付右ニ御含ミヲ請フ又右答弁ハ十五日ニ変更シ度キ先方ノ意向ナルカ而モ議會日程ノ都合上結局十六日ト相成ル事無キヲ保シ難シトノ事ナリ就テハ帝國政府ニ於テハ十五日公表ニ御確定相成度ク英國側十六日公表ト成ルモ之ニテ何等異議無キ旨確メ置ケリ

四 日英通商航海條約改定交渉 一二九

一六五

四 日英通商航海条約改定交渉 一三〇 一三一

在英國林大使發松井外務大臣宛四月十二日着電報第一一七号  
条約第八条及ビ付屬税表消滅期限ニ関スル公表文案

第一一七号(件急) 別電

Japanese Government have given notice they wish to abrogate Article 8 of Anglo-Japanese Commercial Treaty, 1911, together with Schedule annexed to Treaty and His Majesty's Government have accordingly consented to arrive at understanding with Japanese Government that the Article and Schedule will cease to operate on March 10th, 1925. This understanding will in due course be embodied in exchange of notes.

一三〇 四月十五日 外務省公表

日英通商航海条約第八条及ビ付屬税表廢棄

二関スル件

公表第一一七号

大正十三年四月十五日

外務省

帝国政府ニ於テハ明治四十四年四月調印ノ現行日英通商航

ノ正式ノ手続ノ完了ニ依リ確定スルモノトス

一三一 四月十五日 在英國林大使ヨリ  
松井外務大臣宛(電報)

沿岸貿易ニ関スル修正案及ビ陸境關稅ニ關シ

指示ノ件  
第一四九号

貴電第一一一一號乃至第一一四號ニ關シ

(一) 貴電第一一三號修正案ニ對シ異議ナシ

(二) 貴電第一一四號ニ關シ現行日仏條約第十八条同日伊條約

第二十条ニ於テモ何レモ我提案ト同趣旨ニ規定セラレ居

ル処本邦トシテハ英國提案第一「オルタネチブ」ノ通接

境國以外ノ製產物ニテモ國境經由輸入セラルモノハ該

条ノ下ニ接境國又ハ接境國內特殊地域内製產物ト同一ノ

待遇ヲ受クヘキコトヲ明確ニスルノ規定ヲ設ケ以テ西伯

利又ハ支那方面(例ハ大連陸揚ノ上)ヨリ朝鮮國境ヘ

輸入セラル英國產貨物ハ滿州又ハ東部西伯利產貨物ト

同様ノ待遇ヲ受クルコトニ取極ムルコト差支ナシ

又英國委員ノ指摘セルカ如ク第二十五条ハ現行條約ノ儘

ト為シ置クト同時ニ英國委員提出第一「オルタネチブ」

ノ趣旨ヲ達スル為他ノ場所ニ適當ナル修正ヲ加フルコト

例ハ第七条第一項末尾ニ which may be imported

from the same route ナル字句ヲ加フル等モ一案ナルハ

シ尤モ本件規定ヲ設ケルニ當リテハ例ハ英國品リシテ

海條約カ既ニ客年七月十六日ヲ以テ期間満了シタルノミナラス右十二個年ノ有効期間内ニ歐州大戰等世界經濟狀態ノ上リ一大變革アリタルニ鑑ミ右日英條約ニ對シ他ノ歐米各

國々ノ現行諸通商條約ニ對スルト等シク必要ナル修正ヲ加へ帝国ノ通商及產業狀態ノ現状ニ対応セシメタキ希望ヲ有シ去月初旬以来英國倫敦ニ於テ交渉中ナリシカ本件日英

條約ニ對スル帝国政府ノ修正提議中同條約第八条及同付屬稅表廢棄ニ關シテハ英國政府之ニ同意シ同條及同付屬稅表ハ大正十四年三月十日限リ其ノ効力ヲ失フヘキコト並右廢棄内定ノコトハ其ノ兩國通商關係ニ影響スル所特ニ大ナル

ニ鑑ミ成ルヘク早キニ及ヒテ非公式ニ發表スルコトニ両國交渉委員ノ間ニ意見一致セリ尤モ右第八条及付屬稅表ノ交換其ノ他正式ノ手續ヲ執ラルヘキ處右手續完了ノ際ハ何レ改メテ正式ニ公示セラルヘク而シテ右廢棄ハ前記公文交換等ノ正式ノ手續ノ完了ニ依リ確定スルモノトス

一三二 四月十八日(着) 在英國林大使ヨリ  
松井外務大臣宛(電報)

ノ正式ノ手續ノ完了ニ依リ確定スルモノトス

一三三 四月十八日(着) 在英國林大使ヨリ  
松井外務大臣宛(電報)

條約ノ適用範囲、終了方法等ニ關スル英側提

案ノ件

別電

在英國林大使發松井外務大臣宛四月十八日着電報

第一三七号

右英側提案

第一三六号

往電第二一二号中段ニ關シ

第二十六条及第二十七条ニ關スル我カ提案並委任統治地域

ニ本條約適用及愛蘭脫退ノ途ヲ設ケントノ先方ノ希望ヲ双

方満ス為ニ起案シタルモノナリトテ十七日先方ヨリ別電第

一三一七号ノ案ヲ送付シ來レリ右ハ次回會議ノ議ニ上ルヘク先方來信中ニハ何等説明ナキモ右ノ内第二十六条ニ關スル

モノハ同条第二項及第三項ト成ルモノナルベタ又第一一十七  
条ニ関スルモノハ同条第三項ト成リ旧第三項以下ハ第四項  
以下ト成ルモノナルシテ認ム尤モ右ノ点ハ次回會議リテ  
確ムハシ當方ノ研究シタル限リ右ニ対シ何等差支クト認メ  
サルニ付折返シ御回示無キ限リ次回會議リテ同意ハ眞明  
スヘキニ付右御令置キアリタシ尤モ右先方ノ案ハ殖民省ト  
ノ打合セ未テノ趣ニ付未タ「アロウラ」ナンヘヤハト認  
メハシ度並申添くトリ

## (別電)

在英國林大使翁松井外務大臣宛四月十八日着電報第一一七號  
自國ノ行政トニタル地域ニ對スル本條約適用ニ關スル英側提  
案第一一三六號(件附 別電)  
第一一三六號(件附 別電)

## Article 26

The stipulations of the present treaty shall be applicable to any territory in respect of which a mandate on behalf of the League of Nations has been accepted by His Britannic Majesty on notice being given by His Britannic Majesty's representative at Tokyo, of the

desire of His Britannic Majesty's that the said stipulations shall apply to any such territory.

The stipulations of the present treaty apply to all Japanese possessions and to all territories under Japanese administration.

## Article 27

The right of either High Contracting Party to terminate the present treaty separately at any time on twelve months' notice being given to that effect is understood to extend to the Irish Free State and to all Japanese possessions and territories under Japanese administration; it also extends to any territory in respect of which a mandate on behalf of the League of Nations has been accepted by His Britannic Majesty and to which the Treaty may have been made applicable.

第一一三六號(件附 在英國林大使翁  
松井外務大臣宛(電報))  
英國ト臨ニ於テ條約第八條及上付屬稅表消滅  
→期限ニ臨ハ公表ノ生

第一一三六號  
貴電第一一三六號及第一一三七號ニ關シ  
①委任統治地域ヲ條約適用區域トスルノ点ニ關シ彼我形式  
ヲ同等ナラシムル為貴電第一一三七號記載ノ新第一二十六條  
第三項トナルキモノノ末段及同電記載新第一一十七條第  
三項トナルキモノノ中段各ハunder Japanese adminis-  
tration ハ次ニ comma including such territory in  
respect of which a mandate on behalf of the League  
of Nations has been accepted by His Majesty the  
Emperor of Japan ハ加くハシタシ

テ英國臣民船舶及貨物ニ對シ特惠ヲ与フルモ我ニ於テ之  
ニ均霑シ得サルモノト見ラルルヤノ嫌ナシトセス就テハ  
右ニ付キ誤解ヲ避ケル為同条中ニ新ニ一項ヲ設ケ右委任  
統治地域ニ本條約ヲ適用スル場合ニ於テモ同地域ニ關シ  
連盟規約又ハ同規約ノ下ニ定メハシタル委任狀(マハダ  
ーレ)ノ規定ニ何等影響ヲ与フルコト無キ旨ヲ明リシ置  
カシタシ

①前記委任統治地域本條約ヲ適用スルコトナル場合ニハ  
英國側ニ於テハC式タル場合ハ勿論A' B両式ノモノニ  
テモ同地域ヨリ輸入セラルル貨物ニ對シ日本產品ヨリセ  
特惠ヲ与ヘ差支ナキヨメトナルモノト見居ルヤ然爾場合  
ニハ右特惠ヲ何レカノ第三國ニ許与スル場合ニハ我貨物  
モ亦之ニ均霑シ得ヘキ旨ヲ明確ニスルノ一項ヲ設ケ置カ  
シタシ尤モ我ニ於テヤ同様關東州等生産物ニ特遇ヲ与ヘ  
タル場合ニ於テ英國品ニ對シ最惠國待遇ヲ与フキハ勿  
論ナリ

既上記①及②ハ解釈上当然ノコトヲ規定セントスルニ過キ  
キルニ付キ公文交換又ハ議事録等ニ記載セラルルコト  
ハ差支ナシ

〔〕右貴電第一一十七條其ノ儘ニテハ英國委任統治地域中C式  
ハ獨ヤ角ニシテA式及B両ノヤヘリハキトヤ固地域ニ於

一三五 五月一日(着)

在英國林大使ヨリ

松井外務大臣宛(電報)

## 陸境関税、委任統治地域ニ対スル條約適用及

## ビ 鉄道付属地問題ニ関シ討議ノ件

第一六二号

往電第二二二号ニ関シ

五月一日第四回会議開催英國側ニ於テ殖民省ヨリ Dixon ハ  
加ヘタル外出席者及場所前回ノ通り

(一) 之ヨリ先第七条第一項ヲ往電第二四一号末段ノ通り書改  
メ更ニ濫用防止ノ為ノ案文ヲ兎ニ角第二項トシテ追加シ  
説明ヲ付シ研究ノ為先方ヘ送付シ置キタルニ付之ニ基キ  
討議ヲ開始シ先ツ我方ヨリ一面日伊、日仏兩条約他面締  
甸支那条約ノ各先例ヲ引キ当方第二十五条修正減ノ無理  
ナラサルヲ説キ從テ右ハ飽ク迄主張シ度キ次第ナルモ前  
回英國側ノ強硬ナル反対モアリ且往電第二四号第二  
「オルターネチブ」案モアリ試ニ右後者ニ基ケル妥協的  
讓歩案ヲ作製シタル次第ナル旨並第二項ハ右特遇濫用ヲ  
防止センカ為ニ付加シタルモノナル旨ヲ敷衍説明シ先方  
ハ單ニ同一税関ト云フ丈ヶニテハ或ハ海關例ヘハ敦賀ノ

如キニノミ適用セラルヘキ特惠税率ヲ設クル場合ニ公正  
ナラサル結果ヲ生スルヲ慮ル等ノ節ヲ述ヘ双方應酬ヲ重  
タル末先方モ我方主張ノ趣旨ヲ諒解シ一ノ「フォウム  
ラ」ヲ案出シタルモ右ハ英國側内部ニ於テモ反対アリ未  
タ具体的トシテ報告ノ域ニ達シ居ラス先方ニ於テ更ニ熟  
議ノ結果改メテ議スルコトトナレリ

(二) 貴電第一五六号(一)御来示ノ修正ニ対シテハ先方ニ於テ  
異議ナク又同電(一)ニ関シテハ本条約ノ規定ニハ何等影  
響ヲ及ホササル旨先方ニ於テ言明セリ然ルニ前回会議ニ  
テハ往電第二二二号(四)ノ通り一応肯諾ノ意ヲ表シ居タルニモ拘ハラス Japanese administration ノ下ニ在ル地  
域中ニ鉄道付属地ヲ包含セシムルコトニ付テハ先方ニ於  
テ稍々難色ヲ示シ來リ本問題ハ稍々逆転ノ兆アリ就テハ  
当方トシテハ右地域ニハ從来條約カ適用アリタリト主張  
スルコト當方ノ目的貫徹上最モ有利ナリト認ムル処右ノ  
事実ヲ證明スヘキ材料御研究ノ上至急御回示ヲ乞フ  
(三) 尚英國側ハ在本邦英國代理大使ニ電報シ頻リニ其回答ヲ  
俟チ居ル模様ニテ(其電訓ノ何タルカハ探知スルニ由ナ

キモ或ハ滿州ニ於ケル実況報告モ其一ニアラサルカトモ  
思ハル) 英國側ハ次回会議ハ右回電アリタル上ニテ開催  
シタキ意向ヲ洩シ居レルモ次回会合ハ多少遲延ヲ免カレ  
サルベシ

一三六 五月五日 松井外務大臣ヨリ  
在英國林大使宛(電報)  
委任統治地域ニ対スル條約適用ニ關シ指示ノ  
件

第一八六号

貴電第二六二号(二)ニ關シ

一、冒頭先方ニ於テ衡平待遇ノ規定云々ト言明シタル趣ナルモ A 及 B 両式統治地域ニ於テハ連盟規約第二十三条ホ号ノ equitable treatment of commerce 程度ノ保障ニ止メ  
シテ同規約第二十二条 trade 及 commerce ニ対スル equal opportunities 即チ例へ貨物ニ付テハ英國品ト同様ノ待遇ヲ受クヘキモノナルヲ主張シ來リタルモ C 式ナルモ  
知從来日本トシテハ A、B 両式ト等シク是亦本国品ト同様ノ待遇ヲ受クヘキモノナルヲ主張シ來リタルモ C 式ナルモ  
ノハ A 及 B 式ノモノト異リ受任國領土ノ構成部分トシテ統

治セラルヘキモノナルカ故ニ前記両式地域同様本国待遇ヲ受ケ得ルモノト解スルコト困難ナル事情アリトスルモ少ク  
トモ該地域ニ於テハ本国ノ構成部分トシテノ觀念ト扞格セ  
サル程度ニ於テ機会均等主義ヲ認ムルコト即チ少クトモ受  
任國以外ノ第三國ト同一ノ待遇ハ之ヲ保障セラルヘキ次第  
ナルカ故ニ之トテモ所謂 equitable treatment 程度ノ保障  
ニテハ規約ノ精神トハ扞格スト思考ス就テハ本件ニ付テハ  
委任統治地域ノ種別ヲ挙ヶヌシテ往電第一五六号(二)記載ノ  
通り单ニ「委任統治地域ニ付テハ連盟規約及ヒ委任状(マ  
ンダート)ノ規定ニ何等影響ヲ与フルコトナキ旨」ヲ明ニ  
シ置カルルコトトシタシ  
二、尤モ右ノ如ク連盟規約及ヒ委任状ノ規定ニ影響ヲ与ヘ  
サル旨ヲ明ニスルコトニヨリ C 式統治地域ニ付テハ依然連  
盟規約ノ解釈ニ関スル日英兩國間ノ紛争ハ後日ノ問題トシ  
テ残ル次第ナルカ故ニ若シ此次ノ條約改正交渉中適當ナル  
機會アラハ前記 C 式委任統治地域ニ於テモ日本臣民貨物船  
舶ハ第三國ト同様ノ待遇ヲ受クヘキモノト解釈スルコトニ  
関シ日英間ニ意見ノ一致ヲ見ルヲ得ハ至極好都合ナリ  
(三) 貴電後段付属地ノ條約適用区域タリシ事實證明資料ニ閲

シテハ関東長官ニ電照中ナルカ我方ヨリ特ニ事実ヲ指定シ  
證明スルハ恐ラク困難ナルヘシト思考セラルル尙先方ニ対  
スル説明トシテハ我ニ於テハ付属地ニ關シ我行政権ノ行ハ  
レ居ル程度ニ於テ從来英國其ノ他ノ外國人ニ對シ通商条約  
ノ規定ニ反スルカ如キ措置ヲ採リタルコトナキ旨ヲ説明シ  
我ニ於テ條約区域トシテ取扱ヒ居リタルコトヲ主張スルノ  
外ナシト思考ス

一三七 五月九日(着) 在英國林大使ヨリ  
松井外務大臣宛(電報)

### 陸境關稅及ビ條約ノ鐵道付屬地適用ニ關シ討 議ノ件

第二七六号

往電第二六二号ニ關シ

(一) 第五回會議六日午後商務院ニ開催出席者ハ英國側「ウォ  
ウターロウ」ヲ加ヘ當方ハ徳川不快ノ為欠席シタル他前回  
ト同シ

會議ニ先チ二日「ファウンテン」ヨリ徳川宛書面ヲ以テ英  
國側ハ本件條約改訂ニ關シ目下多クノ点ヲ考慮中ニテ右審  
査完了ニハ尚時日ヲ要スヘキ見込ニ付一先六日會議ヲ開キ

陸境關稅及條約ヲ鐵道付屬地ニ「エッキステンド」スル問  
題ニ關シ討議ヲ為スヘク英國側ニ於テハ今ヤ本件ニ對スル  
所見ヲ述フル用意アリトシ最後ニ此際「アイルランド」自  
由國ヲ包含スル英帝國海外所領ノ本件條約ニ對スル地位ノ  
問題ヲモ討議シ度キ旨申送リ來レリ

(二) 會議ノ劈頭「チャプデ」ハ右二問題ニ關スル帝國政府ノ  
提議ニ應シ得サル旨ヲ述ヘ其理由トシテ「一」陸境關稅ニ  
對シテハ(イ)本提議ハ最惠國条款ニ對スル制限トシテ英國ト  
シテハ右条款ハ之ヲ無制限タランムルヲ主義トスルヲ以テ  
之ヲ好マサルコト(ロ)華府九國條約及(ハ)第二回壽府交通總會  
港ニ關スル規約第七条ニ違反スルコト(ニ)英國ノ利益ニ「デ  
ィスター・ビービング」ナルコトヲ擧ケ「二」鐵道付屬地適用ノ  
問題ニ對シテハ(イ)華府條約ノ精神ニ反スルコト(ロ)現行條約  
関東州適用ニ關スル付屬公文中ニハ鐵道付屬地ノ明記無キ  
ノミナラス當時ノ關係書類ヲ閱讀シタルニ付屬地ノ除外シ  
アルコト明ラカナルコト等ヲ擧ケ強硬ナル反対ノ態度ヲ示  
シタリ

依リテ當方ハ(一)(ノ)(イ)ニ對シテハ最惠國待遇ニ對スル或種ノ  
制限タルハ勿論ニシテ帝國カ英國政府ニ提議シテ其ノ承認  
シタリ

ル品目中英國貨物ト競争ノ關係ニ立ツモノアルヘク然ラ  
ハ英國ニ不利トナルヘシ少シニテモ英國ニ不利トナルコト  
ニハ同意シ得サルハ當然ナリ又陸境ニテ特遇ヲ受クヘキ品  
目ヲ承知セスシテ帝國ノ提議ニ應諾スルハ恰モ白地小切手  
ヲ与フルカ如シト云ヒタルニ依リ右陸境特遇貨物ハ原料品  
ヲ主トスヘク「ピッグアイオン」ヲ除キテハ殆ト英國品ト  
競爭ノ地位ニ立ツモノヲ想像シ得ス仮令アリトスルモ極メ  
テ少數ニシテ英國貿易ニ「ジスター・ビービング」ノ結果ヲ生ス  
ルコト絶対ニナカルヘキコト将来特遇ヲ与ヘラルヘキ品目  
ハ承知セサルモ之ヲ開示シ得サルカ若シ之ヲ開示シ其ノ品  
目中英國ニ關係アル物品少數ナル場合ニハ當方ノ提議ヲ容  
レラルル意思ナリヤ蓋シ當方提議タル陸境關稅制度ヲ設ク  
ルコトヲ根本ニ於テ反対セラルルナラハ品目ノ提示モ畢竟  
無意味ニ終ハルヘキコト且帝國ハ新規ノ制度ヲ設ケントス  
ルニアラス英國ニ於テハ緬甸(不明)支那ニノミ特惠ヲ与  
ヘ吾人ニ於テ均霑シ得サルモノナルコトヲ指摘シタル尙英  
國側ハ緬甸ハ本條約ニ何等關係ナシトカ緬甸ノ制度ハ目下  
之ヲ廢止セント考慮中ニシテ且陸境ニ關シスル制度ヲ有ス  
ル國ハ世界中支那ヲ措テ他ニ其ノ例ナク華府會議當時ヨリ  
明ラ求ムル旨述ヘタル専先方ハ右陸境稅關ニ於テ特遇セラ  
ム

斯ル制度ハ之ヲ廢止セントヲ望ミ居タル次第ナレハ支那以外ニ更ニ日本ニ對シテ之ヲ認ムルコトハ困難ナリト云ヒ又「クロウ」ノ如キ三線連絡運賃低減ノ実例ヲ挙ケ帝国側カ運賃低下ニ因リ如何ナル事ニテモ為シ得ヘシト述ヘタルニ由リ三線連絡運賃ハ日本品ノ滿州ヘノ輸出ヲ獎勵スルノ趣旨ヨリ提言シタルモノニシテ右様ノ事ハ輸出ノ場合ニハ行ハルヘキ外國ヨリ物品ヲ輸入スル場合ニ運賃低減ヲ為ス筈ナク又世界ニ其ノ例ヲ見ス（右例アリヤト「ファウンテン」ニ問質シタルニ其ノ例ヲ知ラスト答ヘタリ）且右陸境關稅制度設立ノ目的ハ前頭ノ通ニシテ他國ノ輸入品トノ競争ヲ行フ為ニ設クルモノニ非サルニ付右「クロウ」ノ説ノ如キハ絶対ニ杞憂ニ屬スト駁シ且本制度ノ適用ハ陸上運賃ノ海上運賃ヨリ高カルヘキ經濟上ノ原則ノ結果自然局限セラレ全ク地方的ノモノニ過キサルヘキ事等ヲ力説シタルニ先方ニ於テハ明カニ主義上根本的ニ反対ナリトハ云ハサルカ種々言ヲ構ヘ兔ニ角具体的品目ヲ承知シタル上再考ヲ為スヘシトテ讓ラス依テ次回更ニ討議ヲ続クル事トシ（二）（イ）ニ対シテハ極東部長ニ於テ華府九国條約第三条ヲ読上ケ右ノ精神ニ反スト述ヘタルニ依リ右地域ノ生産物品ヲ日本

ヤ否ヤ識別困難ニシテ弊害ヲ生スヘシト為セルヲ以テ右識別ニ付テハ關稅管理等ノ good face ヲ信セサレハ格別然ラサレハ困難トモ思ハレス又弊害防止ノ方法ヲ見出ス事ハ敢テ難キニ非サルヘシト述ヘ且（二）ニ付テハ前條約當時ノ事

情ハ當方ノ知ル所ニアラサルモ帝國政府ニ於テハ事實上鉄道付屬地ニ對シテモ未タ嘗テ本條約ニ違反スルカ如キ措置ヲ為シタル事ナク（先方モ之ヲ首肯シタリ）事實上本條約ヲ適用シ來リタル次第ナレハ付屬地ヲ適用区域ニ入ルルモ

英國側ニ對シ具体的不便不利益ヲ生スル次第ニアラスト論シタルモ先方ハ付屬地ハ仮令日本カ行政權ヲ有ストスルモ支那領土タルハ明ラカナリト為シ双方種々押問答ヲ重ネタレトモ遂ニ妥決ヲ見ルニ至ラス

（三）最後ニ「ディクソン」ヨリ（一）從来本件條約ニ加入シ居ル加奈陀「ニューファンドランド」其他ノ植民地ニ對シテハ本條約改訂調印後一定ノ期間例へハ一年内ニ改正條約ニ「アドヒヤー」スルヤ否ヤ選択權ヲ付与セサル可カラサル事而シテ加入迄ハ旧條約依然適用セラルヘキモノナルコト（二）「アイルランド」自由國ニ對シテハ往電第二一二号ノ中段ノ趣旨ヲ繰返シ之等ノ点ニ關シテハ先方ニ於テ案文ヲ作成ノ上當方ヘ提示スル事トナリ當方ハ單ニ右説明ノ聽取ニ止メ何等意見ヲ述ヘスシテ散会シタリ

仏、白、伊、瑞典ヘ暗送セリ

一三八 五月九日（着）  
在英國林大使（ヨリ）  
松井外務大臣宛（電報）

### 陸境關稅及ビ鐵道付屬地問題ニ關シ意見申進

ノ件

第二七七号

往電第二七六号ニ關シ（一）陸境關稅問題ニ對スル英國側ノ態度ハ同電ニ依リ委曲御承知ノ通ニシテ華盛頓九国條約其他種々ノ理由ヲ持出セルモ右ハ全ク付ケタリノ理屈ニシテ實際ニ於テハ鮮満國境通過貨物關稅三分ノ一減及三線連絡運賃ニテ手ヲ燒キタル為本件カ将来ニ於テ英國側貨物其他ニ對スル英國側ノ經濟上有力ナル武器ト成ラサルヤニ付危惧ヲ抱ケルニ基クト観測セラレ此点ニ付安心ヲ与フルノ具体的材料ヲ供給スルニ非サレハ我レニ於テ如何ニ口ヲ酢クシテ我カ目的ノ單ニ地方的經濟上ノ便宜供与ニ在ルニ過キサルヲ陳弁スルモ先方ノ同意ヲ取付ケ得ル見込ミ無ク日下一縷ノ望ミハ英國側ニ於テ特遇ヲ與フル陸境輸入貨物品目ヲ

先方ニ提示シ具体的ニ安心ヲ与フレハ或ハ形勢ヲ転回シ得ヘキヤト思料セラルルニ存ス就テハ關係ノ向ト御協議ノ上各品目ノ大体ナリトモ至急御決定相成御回示ヲ得度ク本問題ニ関スル會議ハ右御回示ヲ待チテ開催ノ事ニ取計フノ外ナシト思料ス

鉄道付屬地ニ関シテモ先方ノ態度頗ル頑強ニシテ此ノ上ト

モ我カ委員ヲシテ精々先方説得ニ努力セシムヘキモ如何ニ

議論ヲ以テ先方ヲ説破シタリトテ先方ノ腹カ不承認ニアル以上ハ我方提議ノ実現ヲ見ルコト先ツ不可能ト謂フヘク結

局ノ場合ニ於テハ往電第二五三号後段ノ通政府用品トシテ

記入シ又ハ払戻ノ手段ヲ執ル等ニ依リ当初ノ目的ヲ貫徹ス

ルコトニ最後ノ腹ヲ極メ置カルルコト必要ナルヘシト思惟ス(二)往電第二七六号末尾加奈陀「ニューファウンドランド」及直轄植民地ノ改正条約ニ對スル地位ニ關シテハ「ディクソン」ノ言分ハ條約解釈問題トシテハ穩當ナラスト認メタルヲ以テ「ディクソン」ノ言ハ果シテ英國側ノ提議ナリヤ將又解釈論ナリヤ問質スト共ニ解釈論トシテナラハ當方ノ見解ト相違スルコト即チ前記植民地ノ加入ハ本件條約カ英國ノ領土ノ何レノ部分迄及フカトノ問題ヲ決スルニ止マリ

本件条約ト同一内容ノ別個ノ条約ヲ各個植民地ト締結シタルモノニ非ス從テ一旦加入ノ後ハ本条約ノ改正ハ當然各加入股民地ヲ拘束スルモノニシテ再加入ノ問題生セサルコトヲ婉曲ニ開示シタル書面ヲ岡本ヨリ「ディクソン」ニ送付セシメ置キタリ本件ハ何レ次回會議ニ於テ討議セラルルコトナルヘシ

### 一三九 五月十四日

松井外務大臣ヨリ  
在英國林大使宛(電報)

#### 陸境關稅及ビ鐵道付屬地生産物特遇問題ニ關

##### シ指示ノ件

### 第二〇二号

#### 貴電第二七六号及第二七七号ニ關シ

(一)陸境關稅問題ニ關シ若シ當方当初ノ提案通り第二十五条修正ニ依リ滿蒙貨物ノ優遇ヲ固ルニ在ルニ於テハ最惠國待遇ニ對スル制限ナルモ英國主張ノ第二「オルタネチフ」ノ形式ニ依リ陸境輸入英國產貨物ニモ適用スル趣旨ノ案ヲ採用スル以上必シモ最惠國待遇ノ規定ニ扞格スルモノニアラスト思考ス蓋シ陸境ト海港トノ間ニハ幾分關稅率ノ間ニ相違ヲ生スルコトアルモ右相違ニシテ特別ノ事情アルカ為

メ又特ニ相手國ノ通商ニ不利ナル待遇ヲ与フルノ目的ヲ有スルモノニアラサル限り最惠國待遇ノ規定ニ拘ラス認容セラルヘキモノナルハ支那ハ兔モ角英領印度、西班牙、波斯等亞細亞大陸ノ諸國境ニ於テ普通行ハレ居リ又戰前奥地利匈牙利等ニ於テモ實行セル處ナルニ拘ラス右ニ對シ最惠國待遇ヲ有スル列國ヨリ之ニ抗議セルコトナカリシハ英國委員ニ於テ勿論知悉セルトコロナルヘク現ニ日本モ明治三十七年日本印度間通商條約ニ拘ラス英領印度ニ對シ國境貨物ニ對スル待遇ヲ容認シ居リ英國委員ノ指摘セル海港條約第七条モ亦右特殊事情アル場合之カ實行ヲ容認セルモノニシテ我主張ハ却テ此ノ規定ニ依リ支持セラルモノト云フヘク若シ英國委員ニ於テ本邦ノ提議ニ對シ無用ノ杞憂ヲ懷クコトアラハ右海港條約第七条第一項第二項ノ趣旨ニテ妥協案ヲ作成スルコトニ取計ハレ差支ナシ

(二)抑モ本邦提議ノ根本趣旨タルヤ往電第一九六号中ニ申進シタル通リ現行日英條約ニ對シ修正ヲ加エントスルヨリハ寧ロ一般國際法ニ照シ通商條約中最惠國待遇ノ解釈トシテ当然實行シ得ヘキコトヲ此ノ際為念英國側ノ諒解ヲ遂ケ置カントスルニ在ルニ付貴官ニ於テ本件ヲ議事錄其他簡單ナ

ル形式ニ依リ措弁セラルルモ差支ナキ次第ナルニ付貴官ニ於テハ右御含ミノ上何等ノ形式ニテ本件ニ付英國政府ノ了解ヲ得ル様御尽力相成ルト共ニ現行條約ノ解釈上陸境輸入貨物ニ對シ或程度迄關稅輕減ラナシ得ヘキモノナル我主張ハ飽ク迄之ヲ維持シ置ク様致サレタシ

(三)尚元來本件提議ノ趣旨タルヤ滿蒙產貨物優遇ト云フヨリモ寧ロ陸境經由貿易ノ便益増進ニアルニ付貴見ノ通特惠ヲ與フヘキ品目ヲ提示スルコトハ到底此ノ際決定スルコト困難ナルモ在滿朝鮮ノ農夫ニ關係アル物品以外ニ付テハ大体ニ於テ支那側ニ於テ為シ居ルカ如ク三分ノ一定程度ノ減稅ヲ為ス程度ニ出テサルヘキ旨說明セラルルモ差支ナシ因ニ海港條約ニ關シテハ交通總會ニ於テ我ニ於テ英國委員ト共ニ最モ之ヲ支持シタル行懸モアリ成ルヘク早ク批准シタキ考ニテ目下其手續進捗中ナリ

(四)鉄道付屬地ノ生産物識別ニ關シテハ関東庁ヨリ發給スル生産證明書等ニ依リ之ヲ行フニ於テハ何等困難ナキ次第ナルカ本問題ニ關シテハ(一)陸境貨物優遇問題程強硬ニ主張セサルコトトシ差支ナシ尤モ之レカ主張ヲ撤回スルヤ否ヤハ向後ニ於ケル交渉ノ結果ヲ見タルコトシタシ

(四) 加奈陀及直轄殖民地等ノ地位ニ關シテハ今次ノ条約改正ニ於ケルカ如ク条約ノ内容ニ変更ヲ加フルコト殆々無之單ニ現行条約ニ対シ解釈ヲ確定スルニ外ナラサルカ如キ場合ニハ成ルヘク形式ノ問題ヲ離レ出来得ル丈ヶ簡単ニ解決スル様致度シ

一四〇 五月二十二日(着) 在英國林大使ヨリ  
松井外務大臣宛(電報)

#### 委任統治地域ニ對スル条約ノ適用ニ關スル件

第三〇一〇号

貴電第一八六号ノ一及二回閱ハ

(一) 往電第二六二号(丁) A式及B式 trade 及 commerce 諸平待遇云々トヘ只當時討議ノ意味ヲ簡單ニ申進メタルニ止リ實際ニ於テハ右會議ノ席上右ノ点ニ付先方ノ言質ヲ取付タル為メ岡本ヨリ先ツ先方提案ノ結果連盟規約殊ニ A 及 B 式委任状ノ規定ニ何等ノ影響ヲ及スモノニアラスト諒解シ差支ナキヤ具体的ニハヘ例く、equal opportunity of trade and commerce ニ関スル規定ノ如シム連盟規約第一十一條第五項ノ文句ヲ「クオーム」シ問ヒ質シタルニ対シ英國側ヨリ右當方ノ諒解ノ通リナリト明言シタルモノニ

一四一 五月二十二日(着) 在英國林大使ヨリ  
松井外務大臣宛(電報)

#### 条約第八条及<sup>レ</sup>回付屬稅表廢棄ニ關スル件

公文案ニツキ意見回電方要請ノ件

別電 在英國林大使堯松井外務大臣宛五月二十一日着電報第一〇六号  
林大使トマクムナルド外務大臣トノ間ノ条約第八条及<sup>レ</sup>回付屬稅表廢棄ニ關スル交換公文案  
第三〇五号  
往電第一一一号(丁)ニ閱ハ  
外務省ヨリ日英通商条約第八条並同付屬協定種類廢棄ニ關スル交換公文案別電第三〇六号ノ通り送り越シ意見ヲ求メ來リ本使ハ差支ナシト思考スルモ何分ノ御意見至急御回電ヲ請フ

(別電)

在英國林大使堯松井外務大臣宛五月二十四日着電報第一〇六号  
林大使トマクムナルド外務大臣トノ間ノ条約第八条及<sup>レ</sup>回付屬稅表廢棄ニ關スル交換公文案

第11〇六号 (別電)  
Japanese Ambassador to Ramsay MacDonald.  
Sir,  
In my note No. 47 March 21st, I had the honour to inform you my Government's desire to conclude an

四 日英通商航海条約改定交渉 一四一

agreement with regard to Article 8 of the Treaty of Commerce and Navigation between the Great Britain and Japan signed on 3rd April, 1911, and with regard to the schedule annexed thereto, in order that both the article and schedule might be rendered inoperative at an early date convenient to both parties.

2. On March 11th, I had given a formal notification in compliance with Article 8 of the Treaty that my Government wished to make modifications in the schedule, but since their desire is to abrogate entirely both the article and schedule, the procedure for negotiation and modification as laid down in the Article appears to be unsuitable in the present circumstances.

3. I hope, therefore, your Government will concur in accepting the above date of March 11th as commencement of twelve months' notice of the abrogation of both Article 8 of the Treaty and the schedule annexed thereto which would accordingly lose their validity and cease operation at midnight March 10th 1925.

シテ從テ A式及 B式 委任統治地域ニ關スル限り御懸念ノ点ハ右問答ニテ全然「カヴァー」セラレ居ル次第ナリ何レ「アロシーシングス」ニハ貴電第一五六号(丁)ノ文句ニ成ルベク合致スル文句ヲ以テ記録スル様取計フヘシ  
丁〇六委任統治地域ニ關スル最惠國待遇ニ付テハ御承知ノ通右委任統治地域ニ關スル往年ノ交渉中我方ヨリ讓歩案トシテ提案シタル處濠州側ハ之ニ一顧ヲモ加ヘサリシモノニシテ今日更ニ之ヲ持出スモ濠州政府ニ於テ好意的考慮ヲ加ヘキノミナラズ此ノ解決ノ鍵鑰ハ濠州政府ニ在リテ英國政府ニ存セサルヲ以テ英國政府トノ交渉ニ過キナル今回ノ會議ニ於テ本問題ヲ持出スモ徒ニ會議ヲ紛糾遷延シムル以外到底満足ナル結果ヲ得ル筈ナキニ付今回ハ本件ニ触ルヨーナク他日機會ヲ待ツテ濠州政府トノ直接ノ交渉ニ依リ解決ヲ図ル様御取計ヒヲ得策ト思考ベ

一四二 五月二十二日(着) 在英國林大使ヨリ  
松井外務大臣宛(電報)

#### 公文案ニツキ意見回電方要請ノ件

I avail, etc.

(右和訳文)

MacDonald to Ambassador.  
Your Excellency,

在英帝国大使ヨリ英國外務大臣宛往翰  
以書翰啓上致候陳者三月二十一日付第四十七号拙翰ヲ以テ  
帝国政府ハ千九百十一年四月三日調印シタル英國及日本國  
間通商航海条約第八条並同条約付屬税表ニ関シ速ニ両国ニ  
トリ便宜ナル日ニ於テ同条及同税表共効力ヲ失ハシムル為  
協定ヲ遂ケ度キ希望ナル旨申進候曩ニ三月十一日本使ハ同  
条約第八条ニ依リ帝国政府ハ付属税表ノ修正ヲ希望スル旨  
正式ニ及通告候處同条及同税表ヲ全ク廢棄セムトスル意思  
ナルニヨリ同条所定ノ商議及修正ニ關スル手続ハ此際不適  
当ナルモノノ如ク思考セラレ候

仍テ本使ハ貴国政府ニ於テ前記三月十一日ヲ同条約第八条  
及同条約付屬税表廢棄ノ十二個月ノ予告期間ノ始期ト為シ  
千九百二十五年三月十日午後十一時ヨリ其ノ効力ヲ失ハシ  
ムルコトニ同意セハシムコトニ希望致候

右申進旁本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

千九百一十四年 月 日

倫敦ニ於テ

I have the honour to acknowledge Your Excellency's note No. ....of....regarding your Government's desire to abrogate Article 8 of Treaty of Commerce and Navigation between Great Britain and Japan signed on 3rd April, 1911 and schedule annexed thereto.

- His Majesty's Government appreciate reasons which have led your Government to propose this modification of the Treaty, and they concur in accepting date of March 11th, 1924 as commencement of twelve months' notice of abrogation of both Article 8 of Treaty and schedule annexed thereto which will lose their validity and cease operation at midnight, March 10th, 1925.
- I avail, etc.

(右和訳文)

英國外務大臣ヨリ在英帝国大使宛復翰  
以書翰啓上致候陳者 日付第 号貴翰ヲ以テ千九百

十一年四月三日調印シタル英國及日本國間通商航海条約第

八条及同条約付屬税表ヲ廢棄シ度キ貴国政府ノ御希望ニ関  
シ御申越ノ趣敬承致候

王國政府ニ於テハ貴国政府ニ於テ右条約修正方提議セラル  
ルニ至リタル理由ヲ諒解シ千九百一十四年三月十一日ヲ以  
テ同条約第八条及同条約付屬税表廢棄ノ十二個月ノ予告期  
間ノ始期ト為シ千九百二十五年三月十日午後十一時ヨリ其  
ノ効力ヲ失ハシムルコトニ同意致候

右回答申進旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬具

千九百一十四年 月 日

倫敦ニ於テ

| 四 | 五月一十四日(着) 在英國林大使ヨリ  
陸境關稅問題ニ關シ在滿朝鮮人農夫ニ關係ハ  
ル物品ノ意味回示方要請ノ件

第11〇七号

(省略)  
貴電第一〇九号ニ閑シ

朝鮮陸境關稅令第二条第一号第三号カ接境一定地域内ノ物  
品ニ而曰闕スルコトタルハ其規定ヲ讀ミ居ル當方ノ承知シ

四 日英通商航海条約改定交渉 | 四 |

居ル所ニシテ又現行條約第一十五条ノ存在モ御来示ヲ俟ツ  
迄モナク夙ニ承知シ居レリ往電第一〇九〇号ニテ御回示ヲ求  
メタル趣旨ハ貴電第一〇一〇号(省略)ニテ御回示ヲ求  
披露スル心構ヘナル處右貴電中ニハ在滿朝鮮ノ農夫ニ「閑  
係アル」物品以外云々トアリ農夫ニ關係アル物品トハ意味  
茫漠ニシテ先方ヨリ其的確ナル意味ヲ聞キ質スヘキハ必然  
ナリト思考シタルニ付其ノ意味ヲ確カムル為メ照会ニ及ヒ  
タル次ニシテ閑稅令第二条第二号及第三号ノ物品ナリヤ  
トベ『鮮人カ滿州ニ於テ収獲シ又ハ製產シタル物品及右在  
滿鮮人カ之等農作物ヲ作ル為メニ必要ナル物品ニシテ何レ  
モ自ラ輸入スルモノ』ヲ意味スト解シ差支ナキヤトノ意味  
ナリ何モ朝鮮總督ノ定ムル陸境隣接地域内ノモノニ限ル趣  
旨ナルヤ否ヤヲ聞キ質シタル次第ニアラス(然ラサルハ當  
初第十五条ノ修正案ヨリ一般的陸境關稅案ニ変更セラレ居  
ル事實ニ照シ御了解アルヲ當然トス)貴電ニテハ右在滿鮮  
人ニ關係アル物品トハ單ニ収獲物而已ヲ意味ストモ解セラ  
ルルカ何シロ當方質問ノ要点ヲ御了解ナクシテノ御回示ニ  
付右ノ点ニ閑スル再応明白ナル御回示ヲ仰キタシ

181

一四三 五月二十九日 松井外務大臣<sup>ヨリ</sup> 在英國林大使宛(電報)

在滿朝鮮人農夫ニ関係アル物品ノ意味回示並

ジニ条約第八条及ビ同付屬税表廢棄ニ閣スル

交換公文案承認ノ件

第一一七号

(一) 貴電第三〇七号ニ閣シ往電第一〇一一号(丁)農夫ニ関係アル物品トハ鮮人カ滿州ニ於テ收獲シタル農產物ノミヲ意味シ且自ラ輸入スルト然ラサル場合トヲ區別セサル趣旨ナリ

(二) 貴電第三〇五号及第三〇六号ニ閣シ先方送付越ノ案文ニテ異議ナキモ右公文交換実行前枢密院ニ諮詢セラルニ付御裁可アリタル旨ノ電報ヲ俟チ右実行セラルコトト致シタシ

一四四 五月三十日 松井外務大臣<sup>ヨリ</sup> 清浦總理大臣宛

日英通商航海条約第八条及ビ同付屬税表廢棄

方ニ閣シ閣議請議ノ件

通総機密第六八号

植民地ト本条約ノ関係ニ閣スル英國案

第三一八号

往電第二七六号ニ閣シ

三十日「オフィス・オヴ・ウォーラークス」ニ於テ第六回會議

開催出席者先方「ウイルス」ヲ加ヘ「ウォーターロー」ヲ

除キ当方徳川ヲ加ヘタル外前回ニ同シ

(一) 脊頭先ツ陸境問題ニ閣シ前回會議ノ状況ヲ報告シタル処  
政府ヨリ「ロメント」來リタリトテ貴電第六五号(丁)<sup>(省略)</sup>九六号(丁)及第二〇一号(丁)及(丁)ノ趣旨ヲ覺書ノ形ニ認メ置キタルモノヲ読上ケタル上之ヲ先方ニ交付シ次テ討議ニ入りタルカ先方ハ依然反対ヲ固執シ何等纏リタル結果ニ到達セス

右覺書写郵送ス

(二) 次ニ植民地ト本条約トノ関係ニ閣シ先方ヨリ別電第三一九号案ヲ提出セリ右ハ當方ニ於テ篤ト研究ノ上次回リ討議ノ答ナルニ付右ニ閣スル何分ノ御意見御回示アリタシ尤モ鐵道付屬地問題ニ付テハ本日我方ヨリ先方ノ案ニ該付屬地ヲ含マサルニ對シ一心異論ヲ唱ヘ置ク旨ヲ述ヘ多少ノ間咎ヲ経タルカ是亦先方ノ態度強硬ニシテ次回更ハ

明治四十四年四月三日倫敦ニ於テ調印シタル現行日英通商航海条約ハ既ニ客年七月十六日ヲ以テ期間満了シタルノミナラス右十二個年ノ有効期間内ニ歐州大戰等世界經濟狀態ノ上ニ一大變革アリタルニ鑑ミ帝国ノ通商及産業ノ現状ニ対応セシムル必要上同條約第八条及同付屬税表ヲ明年三月十日限り其ノ効力ヲ失ハシムヘル(編註)在英大使來電第三〇六号ノ通り公文ヲ在英林大使ト先方外務大臣トノ間ニ交換致度候條閣議決定相成度此段及請議候也

明治四十五年五月三十日(着) 在英國林大使<sup>ヨリ</sup>  
松井外務大臣宛(電報)

一四五 五月三十一日(着) 在英國林大使<sup>ヨリ</sup>  
松井外務大臣宛(電報)

清浦總理大臣 宛

日英通商航海条約第八条及同付屬税表廢棄方

ニ閣シ請議ノ件

一四五 五月三十一日(着) 在英國林大使<sup>ヨリ</sup>  
松井外務大臣宛(電報)

陸境關稅問題討議ノ模様及ビ植民地ト本条約

ノ関係ニ閣スル英國案報告ノ件

別電 在英國林大使發松井外務大臣宛五月三十一日着電  
報第三一九号

我方主張ヲ統クヘキカ先方承諾ノ見込尠シ

(別電)

在英國林大使發松井外務大臣宛五月三十一日着電報第三一九号

植民地ト本条約ノ関係ニ閣スル英國案

第二二九号 別電

(1) Stipulations of Treaty signed London on 3rd April 1911, as modified by other provisions of present protocol, shall be applicable all Japanese possessions, Japanese leased territories and territories in respect which mandate on behalf League of Nations has been accepted by His Majesty Emperor Japan, and right of either H. C. P. under second paragraph Article 27 said Treaty to terminate it separately any time, on giving twelve months'

notice, shall be understood extend to termination the Treaty as modified in respect any Japanese possession, Japanese leased territory or territory in respect which mandate on behalf League of Nations has been accepted by His Majesty Emperor Japan.

(2) Modification of Treaty signed London 3rd April

1911, contained in present protocol, shall not applicable to any His Britannic Majesty's self-governing dominions, colonies, possessions or protectorates on behalf which notice of adhesion has been given under 26 said Treaty unless notice shall have been given by His Britannic Majesty's representative Tokyo of desire His Britannic Majesty that said modifications shall apply any such territory, in which event said Treaty shall apply as modified.

No such notice shall have been given in respect any such self-governing dominion, colony, possession or protectorate, stipulations of said Treaty shall continue apply to such self-governing dominion, colony, possession or protectorate without modifications contained in present protocol, unless notice of termination shall have been given by either Party in accordance second paragraph Article 27 Treaty in respect of such self-governing dominion, colony, possession or protectorate, in which event Treaty shall cease have effect as regards such self-

it separately any time on giving twelve months' notice shall be understood extend to separate termination of Treaty as modified in respect such self-governing dominion, colony, possession protectorate or territory.

Hayashi

在英國林大使  
松井外務大臣宛（電報）

## 陸境関税問題解決策ノ興衰並ニ其ノ如ニ

## 意回回示方要諦ノ件

第111回印

往電第111-8即丁リ閑ハ

(1) 同會議席上陸境関税問題ノ閑スル先方ノ主張シタル論点中注意ニ值スルモノ左ノ通

(1) 華府条約、海港条約等最近ニ於ケル各種条約カ陸境特別関税制度ヲ非テシ其撤廃ヲ規定スルニ拘ハラス日本ニ於テ新ニ此制度ヲ設ケハスルハ奇怪ナリト為ハコト（是ニ対シテハ前頭二条約トヤ「ループホウル」アリ）陸境特別制度ヲ認ムルコトヲ以テ反駁シタルカ服セバ）（2）海港条約第七条ハ唯非常ナル例外ノ場合ニ陸境特別閑

governing dominion, colony, possession or protectorate twelve months after notice termination has been given.

(3) Stipulations Article 2 shall understood extend to Irish Free State and in addition right of either party under second paragraph of Article 27 treaty to terminate it separately shall understood extend to separate termination in respect Irish Free State.

(4) Stipulations of Treaty signed London on 3rd April 1911, as modified by present protocol, may be made applicable any of His Britannic Majesty's self-governing dominions, colonies, possessions or protectorates on behalf which notice of adhesion has not been given under Article 26 said Treaty and to any British leased territory in respect which mandate on behalf of League of Nations has been accepted by His Britannic Majesty if notice given by His Britannic Majesty's representative at Tokyo of desire His Britannic Majesty that said stipulation shall apply such territory, and right of either Party under second paragraph Article 27 Treaty terminate

税ハ看過スルモノハリシ小朝鮮陸境ハ此非常ナル例外ハ許容スルキ特別理由ナシト為スロ（是）ノ対シトクノ方（a）陸境特別関税制度カ細則大陸諸国間ニ於ケル通例事タハコト（b）朝鮮陸境ハ大正九年迄海關トハ別ノ關稅行ハシ居タルコト及（c）在滿殊ニ在間島鮮人ノ農作物及其ノ作業ニ必要ナル物品ハ從前朝鮮陸接國境關稅令ニ依リ無稅タリシニ今ヤ普通ノ稅ヲ支払ハシメ居リ在滿鮮人ニ酷ナル結果ヲ生シ居ルコトヲ覺書中ヨリ讀上ヶ特別理由トシテ主張シ他方海港条約決定ノ際「×××」へ為シタル宣言中印度陸境特別制度必要ノ理由カ唯一方ニハ發達シタル海港アルニ陸境方面ハ未開民族ノ住ム山嶽地方ナリトノ事實ニ止マリニ対比セバ遙ニ我ニ理由アルコトヲ知タルモ朝鮮ノ地勢ハ寧ロ西班牙、伊太利ニ比スベク海岸線陸境ニ比シ頗ル長ク輸入ハ海路ヨリ行ハルルカ自然ナリ等ト為シ唯（c）ノ理由ヲ除キ其ノ他ノ理由ハ理由ナラストテ承知セバ）（a）先方ハ陸境通過輸入物品中朝鮮海峡ヲ越エテ日本ニ至ルヤハ迄モ陸境關稅ノ特遇ヲ受クルヲ不謂ム是レヲ朝鮮内リト消費セハルルヤハリ限局シ得サルヤト結セルカ

右ノ結果ハ本提議カ我目的ニ副ハサルモノト認メタルト  
実行上非常ノ困難ト責任トヲ生スルコトナルト思惟シ  
タルヲ以テ当方に於テ絶対的ニ考慮シ得サル処ナリト答  
ヘ置キタリ

(二)「クロウ」ノ如キ最後ニ英國側トシテハ既ニ第八条廃  
棄ノ同意ヲ余儀ナクサレ此上ニ单ニ日本ノミニ利益アル  
提議ニ同意スルハ其ノ立場上困難ナルコトヲ諒承セラレ  
タシト述ヘタリ

(二)以上及往電第三一八号ニテ御承知アルヘキ通本問題ハ今  
ヤ行詰リノ姿ニシテ形勢廻転ノ為ニハ何等乎ノ方法ヲ講  
スルノ必要アル事(イ)貴電第二〇二号(イ末尾ノ海港條約第  
七条ノ規定ヲ採用シテ本件提議ニ代フルノ案及同電(二)ノ  
議事録記載等ノ方法ハ只形式ヲ變ヘテ實質上ニ於テ先方  
ヲシテ朝鮮國境特別關稅制度ヲ敷ク事ヲ承認セシメント  
スルモノト認メラルルカ斯ル方法ニテ先方ヲシテ事實上  
我カ提議ヲ承認セシムル事目下ノ形勢上到底不可能ト認  
メラレ(ロ)然ラハ陸境關稅ノ特典ヲ受クル物品ヲ朝鮮内ニ  
テ消費セラルルモノニ限ル事トスルカ(之ハ帝國政府ニ  
於テ到底御同意出来マシト思考シタルヲ以テ我カ委員ハ

前頭ノ通應答シタル次第ナリ)又ハ右品目ヲ滿州ニテ製  
造又ハ生產セラルル物品ニ限ル事トスレハ(即チ只陸境  
通過貨物ノ凡ヘテニ三分ノ一減ヲ為スト云フ形ヲ取ラス  
右三分ノ一減ヲ受クル貨物ノ品目ヲ定メ且右品目ヲ選択  
スルニ當リ滿州ニテ製造又ハ生產セラルル物品ニ限極ス  
ルノ「アッシュアランス」ヲ予メ英國ニ与フルノ義ナリ  
右ハ先方ノ危惧ノ主トシテ英國物品トノ競争ノ点ニ在ル  
ヲ以テ之ヲ緩和セントスルニ在リ同種ノ英國品カ右陸境  
ニ於テ同一待遇ヲ受クル事ニハ変リ無キ次第ナリ)幾分  
先方ノ反対ヲ緩和シ得ヘク一個ノ手段タルヲ失ハスト思  
考セラルルカ先方ニ於テ之カ為ニ從前ノ反対ヲ翻シ我カ  
提議ニ必ス同意スヘントノ確信ヲ有セス(ハ)就テハ本使ト  
シテハ此際左ノ二方法中其ノ一ヲ選フノ外本件解決ノ望  
ミ先ツ無之シト認ム

(a)本件提議ヲ「ドロップ」シ帝國政府単独ノ決意ヲ以テ  
本件制度ヲ朝鮮國境ニ樹立スルコト  
貴電第二〇二号ニ依レハ關稅ニ關スル一般的最惠國条款  
ノ存在ニ拘ハラス陸境關稅特別制度ヲ設ケ得ルハ既ニ幾  
多ノ國際先例アリ本提議ハ為念ニ了解ヲ得置クノ手段タ  
シテハ更ニ考慮ノ上申進スヘシ

ルニ過ギストノ事ナルカ然ラハ元來本件制度ノ如キハ我  
カ單獨ノ行為ヲ以テ設ケ得ヘキモノト云ヘク英國ノ了解  
ヲ取付ケ得レハ之ニ越シタル事ハ無キモ右取付ケ困難ト  
成リタル今日ノ場合ニハ之ヲ為スノ必要モ無ク又無益ナ  
リ而シテ今帝國單獨ノ決意ニテ本制度ヲ設クルトスレハ  
英國ハ之ニ對シ故障ヲ申立ツルヤモ知レス右故障ノ根拠  
ハ多分左ノ二点ニ存スヘシ

一、現行條約第七条ニ依リ海路輸入品ニ對シ陸境ニ行ハ  
ル免稅又ハ低稅ヲ主張スルヤモ知レス右ニ對シテハ日印  
改定第一条ヲ引用シ日本品ヲ海路印度ニ輸入スル場合ニ  
緬甸支那又ハ緬甸暹羅陸境輸入支那品又ハ暹羅品ニ与ヘ  
ラルルト同一待遇ヲ与ヘラルルノ保障ヲ得サル限り其ノ  
要求ヲ認ムル能ハストノ理由ニテ拒絕シ得ヘシ(右ハ會  
議席上當方ニテ「ヒント」シタルニ先方ハ同一待遇ノ保  
障ヲ英國ニ對シ求ムルト云ハルルモ陸境特惠稅ヲ有セサ  
ル他ノ國ヨリ海路輸入品ニ陸境特惠率適用方ヲ主張シ來  
ラハ予メ御用心肝要ナリト云ヘリ)

二、英國側ハ恐ラク前記ノ方法ヲ採ラスシテ海港條約第  
七条ヲ根拠トシ本電(イ)及(ロ)ノ次第ヲ強調シ右条項ノ違  
背

觀念ニ基クモノナリ

以上縷説ノ諸点ニ対シ御考慮ノ上何分ノ儀御回示アリタシ  
往電第三一八号(二)即チ鐵道付屬地問題其他ニ関スル本使ノ  
意見ハ追テ電報ス

一四七 六月六日 松井外務大臣ヨリ  
在英國林大使宛 (電報)

**植民地ト本条約トノ関係ニ関スル英國案ニ對  
シ我方意向回示ノ件**

第一三一八号

貴電第三一九号及第三二四号ニ關シ

(一) (1)(2)(3)別ニ異議ナキモ之ニ対スル我方ノ同意ハ先方ニ  
於テ左ニ掲クル陸境閑稅問題ニ関スル我方ノ妥協案ニ同意  
スルコトヲ条件ト致シタシ即チ右陸境問題ニ付キテハ貴電  
第三一八号(一)記載ノ通り容易ニ同意セサル場合ニ於テハ我  
原提案タル第七条及第二十五条ニ対スル修正交渉ハ之ヲ打  
切ラルルト共ニ往電第二〇二号(一)末段ノ海港條約第七条ノ  
趣旨ニ依リ今後我ニ於テ行動スル所アルヘキコトニ対シ何  
等カノ形式ヲ以テ彼ヨリ了解ヲ取付クルノ外ナシト思考ス  
尤モ同條約第七条ノ解釈ニ付テハ貴電第三二四号ニヨレハ  
我見解ト異ルモノアルモ右ニ付テハ此際之ヲ決定スルノ必

第一三一三号

本電為参考(一)白、伊各大使ヘ暗送アリタシ  
一四八 六月六日 在英國林大使宛 (電報)

**英國植民地ト條約トノ関係並ヒニ鐵道付屬地  
問題ニ關シ意見申進ノ件**

(六月六日接受)

往電第三一八号(二)ニ關シ

一、往電第三一九号ノ案ハ鐵道付屬地ヲ除外セル点ヲ除キ  
テハ吾ニ別段大ナル不便モナク又英國側カ同案ノ實質的  
変更ヲ承諾スヘキ見込モナキニ付付屬地ノ点ヲ除キテハ  
帝國政府ニ於テ御同意相成リ然ル可シト思考ス、尤右ノ  
結果トシテ第八条及付屬稅表ハ「ニューファウンドラン  
ド」其ノ他英植民地ニ対シテハ日英間ノ右廢棄合意ニ加入  
公文交換ニ拘ラス依然存続スルコトナルヲ以テ本年九  
月初旬迄ニ之等英領諸地方カ右日英間ノ右廢棄合意ニ加入  
セサル時ハ九月十日ニ至リ我方ヨリ之等諸地方ニ対スル  
同条及稅表ノ廢棄通告ヲ英國政府ニナスヲ要スヘキニ付  
右ハ御含置アリタシ、尚先方ノ案承認明ニ際シ右ノ関  
係予メ先方ノ承知ニ入レ置ク様取扱フ積ナリ

二、鐵道付屬地ニ關シテハ同案ハ之ヲ除外シ居ルニ付前回  
會議席上異議ヲ述ヘタル序ニ右地域ヲ本條約適用區域ト  
ナスコトハ英國側ニテハ單ニ日本側ノミニ利益アルヤニ  
考ヘ居ル如キモ之ヲ適用区域トナス結果トシテ英國モ鮮  
カラサル利益ヲ受クルコトナル、例ハ英國側ハ同地  
域内ニ於ケル其ノ臣民ノ居住、旅行等身體財產ノ保護等

ニ關シ本條約ヲ根拠トシテ其ノ適用可能ナル範囲ニ於テ  
本條約ノ規定スル処ヲ帝國側ニ対シ要求スルコトヲ得ル  
次第トナルコトヲ指摘シタルカ英委員ハ之ニ対シ英國側  
ニ於テハ本條約ノ條項ヲ完全ニ適用シ得ル地域ニアラサ  
レハ之ヲ適用区域トシテ主張スルカ如キコトアラス從テ  
同地域ノ如キ右規定中適用シ能ハサル條項多キ地域ヲ本  
條約ノ適用区域トナスニ同意シ得ストナシ結局更ニ次回  
ノ討議ニ譲ルコトトシタルカ本問題ハ今ヤ双方論議スヘ  
キ点ハ悉ク論議シ尽シタル姿ニテ此上ハ唯從来ノ議論ヲ  
繰返スノ外ナク從テ形勢転回見込ナキ次第ナリ(尤他方  
會議ヲ離レテ何等妥決ノ途ナキヤニ付考究ヲナシ居レ  
リ)

元來付屬地ヲ本件條約適用区域ト為スニ依リ帝國側ニ於テ  
予期シタル実益ハ同地域ノ生産物品ニ対シ帝國側ニ於テ特  
恵ヲ与フルノ事實ニ付英國側ノ了解ヲ得将来ニ於ケル争議  
ノ分子ヲ除去スルニアリタルモノナルカ既ニ屢々申進メタ  
ル如ク完全ニ我行政權ノ下ニ在ル地域ノ生産物品ニ対シ  
特恵ヲ与フルハ敢テ英國ノ同意ヲ俟ツノ必要ナキ當然ノ事  
ナリ而シテ右ノ事態ハ同地域カ條約適用区域ナリヤ否ヤニ

要ナカルヘシ尚同貴電所載(a)(b)御意見ニ付テハ關係省トモ  
協議ノ上追テ回電スヘシ

(二)ニ就テハ日英條約未加入ノ自治領、植民地カ本條約ニ  
加入スルヤ否ヤノ意向ヲ予メ承知シタル上賛否ヲ決スルコ  
トニ致シタシ尤モ我方ニ於テハ右自治領、植民地ニ關シテ  
ハ往電第六七号六方針所載其ノ加入ニ対シ一定ノ条件ヲ付  
スルコト又ハ一般方針ニ扞格セサル程度ニ於テ特別條約ヲ  
締結スルコトモ異議ナキ次第ナリ

(三) (1)末段 extend to termination & in respect any Japanese possession トノ間及(4)前段 British leased territory  
in respect which mandate ムノ間再電アリタク並中段  
Tokyo ノ次ニ加入通告ニ關スル期間ノ制限ナキヤ為念回電アリタシ



## 陸境關稅問題ニ闇スル英國案

## 第六三三七号

以テ大体右ニテ纏ルモノナラハ右ニテ本問題ヲ終了スル  
ヲ可ト認ム

(一) 陸境特別關稅制度問題ニ闇シテハ結局ノ所往電第三三一四号(11)(ア)ノ方法ニ依ルヲ可ト認ムルニ於テ何等從來ノ意見ヲ变更シタル次第ニアラサルカ往電第三三五二号等ニ對シ其後何等ノ御回示ナク未タ右ニ依リ处置スルコトニ付御決斷付カサル儀ト察セラレ他方當方ニ於テモ他ニ何カ纏メ得ル方法ナキカ研究中ナリシカ先般一種ノ試ミトシテ岡本ニ於テ本件ニ闇スル日白間交換公文ニ則リタル案ヲ同官一個ノ私案ニシテ未タ本使ニ建議セサルモノトシテ先方ノ考慮ニ供シ置キ同官ニ於テ休暇終了後商務省ニ「ファウンテン」ト会談シタルニ右案ノ趣旨ニハ左程ノ反対モナキ模様ニテ右案ノ意味ヲ今一層明瞭ニスル為ニ試ミニ起草シタリトテ別電第六三三八号ノ如キ案ヲ提示セリ尤モ先方側全部ノ意見カ右案ニ纏リタルモノニアラスシテ単ニ「ファウンテン」ノ私案ニ過キナル旨断ハリタルカ大体先方側ノ意見ヲ質シタル結果ナルヘシト察セラルニ付右ニ闇スル御意見至急御回示アリタシ本使トシテハ該案ハ日白交換公文ト趣旨ニ於テ全ク同一ナルヲ

本件リ付テハ到底英國側ノ同意ヲ取り付ケルコトヲ得スト認メラルニ付此際本件リ付テノ合意ハ之ヲ斷念スルノ外ナシト認ムルニ付反対ノ御回示ナキ限リ右様取計フクシ

(別電)

在英國林大使発幣原外務大臣宛九月十四日着電報第六三三八号

## 第六三三八号

Notwithstanding the provisions of the Treaty of Commerce and Navigation signed at London on 3rd

April 1911, neither Contracting Party will regard as being

on 15th November 1923. Should any question arise as to whether any such concession is in accordance with the terms of the said Article 7, it shall in the event of dispute be dealt with in the manner prescribed in Articles 21 and 22 of the Statute.

~~~~~  
一九二四 九月一〇日(着) 在英國林大使  
幣原外務大臣宛 (電報)

## ノ闇ニ闇スル件

## 第六三三九号

貴電第三三五二号ニ闇ハ

十一日岡本「ファウンテン」ト往電第六三七号(ト)会談ノ節愛蘭ニ闇シテハ往電第三三九号第三項ノ英國側提案モアリ右ハ今後ノ商議ニ依リ確定スベキモノナントモ愛蘭ニ闇シテハ第八条及付屬稅表ノ適用除外ヲ我方ニ於テ要求セサルヲ得スト述ヘタル処同人ハ第八条及稅表ハ過般ノ交換公文ニ依リ既ニ有効ニ消滅セリト答ハ岡本ハ右ハ日英條約ノ所謂合衆王國ハ往電第三三九号第三項ノ如キ規定ニ付合意ヲ見ナル今日尚愛蘭自由國ハ当然包含ベルモノト解スベキカ

故ニ右公文交換ニ依リ第八条及税表ハ愛蘭ニ対シテモ消滅シタルモノト英國側ニ於テ解釈シ居ルニ依ルモノト認メタル趣ナリ

尚此点ハ愛蘭國ニ対スル規定ヲ議定スルニ当リ第八条及税表ノ適用無キコトヲ規定中ニ插入スルナリ又ハ公文交換若ハ「プロシージングス」ニ記録スルナリノ方法ヲ以テ念ヲ押ス積ニ致シアルニ付右ニ御承知置キアリタシ

一五五 九月二十三日 常原外務大臣ヨリ  
在英國林大使宛（電報）

### 陸境関税ニ閑スル英國案ニ対シ字句ノ修正方

#### 指示ノ件

第三五八号

貴電第六三七号及第六三八号ニ閑シ  
モ本件茲一、二週間中ニ條約改正調査委員会ニ於テ決議スルトコロアルヘキ手筈ト相成リ居ルニ付先方ヘノ確答ハ追テ電報スル迄暫時差控置カレ度シ尤モ該条項中リハ of Korea ナル文字挿入セラレ居リ体裁上面白カラサルニ付形式ヲ全然双務的トスルタメ Concession 以下 party 迄二

リシ岡本案ノ双務的且一般的ノ形式ヲ態々片務的形式トシ “of Korea” ナル文字ヲ挿入シタルハ特ニ朝鮮國境以外ニ拡張ノ余地ナカラシメントノ考慮ニ基クモノト認ム可ク從テ先方ハ多分貴信ノ修正ニ同意セサル可シト存ス然ルニ他方我方トシテハ朝鮮陸境ノミヲ目標トシ其レ以外ノ拡張ノ企図ナキ次第ナルニ付先方ノ案ヲ其儘認ムルモ實質上何等支障ナシト考フモ會議ニ於テ一応貴信修正ニ付先方ノ意向ヲ訊シタル上先方ニ於テ異議アラハ強テ主張セサル事ト致ス可キニ付御承知置ヲ請フ

一五七 十月二日（着） 在英國林大使ヨリ

常原外務大臣宛（電報）

### 条約改訂交渉終了後取ルベキ措置ニツキ意見

#### 申進ノ件

第六七一号

往電第六六七号ニ閑シ

一、本件条約改定交渉モ陸境問題ニ付合意ヲ見ハ実体上ノ問題ハ茲ニ終了スル次第ニテ残ル所ハ會議ニ同意ヲ見タル点ヲ議定書ノ形ニ書キ表ハシ他方討議中彼我ノ諒解シタル点ニシテ後日ノ為メ記録ニ止ムル必要アルモノニ付夫々

十五字ヲ Special reduction of customs duty which the other party may make for goods imported over its land frontierノ十八字リ改メ且其ノ次ノ and ノ次ノ which may be ヲ挿入シ末段 concession ヲ reduction of customs dutyニ改メラレタン

一五六 九月二十七日（着） 在英國林大使ヨリ

常原外務大臣宛（電報）

### 陸境関税ニ閑スル英國案ノ字句修正ニ閑シ意

#### 見申進ノ件

第六六七号

貴電第三五八号後段ニ閑シ本問題ニ閑シテハ既往ノ往電ニテ御承知ノ通英國側トシテハ本件条約適用地域内ニ於テ陸境特別關稅制度ヲ新設スルノ意図ナキ為帝国側ノ主張ニ同情ヲ有セス又主義トシテ斯カル特別制度ヲ新設セシメサラントシ居ル次ニテ岡本案ノ趣旨ニ依ル対案ヲ屢々提示シタルハ開港條約ニ調印セル英國トシテ別ニ新事態ヲ作ル次第ニアラサル為帝国側ノ主張ニ花ヲ持タセタル意味ニテ之ヲ為セル事ト考ヘラル從テ先方トシテハ其適用ヲ最小範囲ニ限極セントスルハ蓋シ自然ノ数ニシテ貴信修正ト同様ナ

適當ノ措置ヲ講スルヲ要スルニ止マル所我方トシテ右記録ニ止ムル等ノ措置ヲ要スル点ハ（a）沿岸貿易ニ閑シ相互主義ノ下ニ之ヲ如何ナル日英船舶ニ許容スヘキヤノ具体的適用問題ハ帝國ニ於テ沿岸貿易開放ニ決シタル際更ニ交渉スルモノナルコトノ諒解（b）A 及 B 式委任統治地域ニ本件條約ヲ適用スル場合ニ於テ連盟規約及委任上ノ規定ニ何等ノ影響ヲ及スヘキモノニアラストノ諒解（c）「アイランド」ニ付往電第六四九号末段ノ措置（d）鉄道付屬地除外ニ付キ後日累ヲ残サル様措置スル等ノ点ニアリ

二、租借地生産物品優遇ニ閑スル諒解ニ就テハ其後篤ト考慮ヲ重ネタルカ往電第六三一七号（一一）所報付屬地問題拒否ニ閑スル先方ノ理由カ其支那ノ主權ノ下ニアルコトニ存シ租借地亦法理上支那ニ領土權アリト主張シ得ヘキニ顧ミ又近着ノ本邦新聞紙ニ本件ノ結果我ニ大ナル利益ヲ生ストノ意味ノ記事アリ右記事ハ在日英國大使等ヨリ當國政府ニ報告セラレ當國政府ノ注意喚起セラレ居ルモノト見ルヲ正当トスヘク旁々我方ニ於テ本件諒解ニ付念ヲ押シ強ヒテ之ヲ記録ニ止ムルコトヲ求ムルニ於テハ之ヲ機會トシテ英國側ニ於テ之ヲ認ムル能ハスト主張スルカ如キ蔽蛇ノ結果ヲ見

サルヤト憂慮セラル所先方ハ往電第二二二号ノ末尾ノ如

キ言質ヲ會議ニ於テ我方ニ与ヘ居ル外本年機密第一四号拙

信英國政府宛公文付属覚書b四ニ於テ租借地等ヲ條約適用

区域トスル目的ノ一トンテ特惠問題ヲ明瞭ニ掲ケ居ルニ拘

ハラス先方ニ於テ付属地ニハ異議ヲ唱ヘ乍ラ租借地ニハ異

議ヲ唱ヘス又特惠問題ニ関シ留保ヲモ為サヌシテ往電第三

一九号第一項ノ規定ニ同意スルハ論理上当然ノ帰結トシテ

租借地特惠ノ点ヲモ併セ認メタルモノト為ササルヘカラス

従テ此点ニ付テハ其諒解ヲ記録ニ止ムル等ノ主張ヲ為サス

知ラヌ顔ヲシテ事態ヲ経過セシムルコト却テ上策ト認ムル

ヲ以テ反対御来示ナキ限り右様取計ヒ致スヘシ

三、付属地問題ニ關スル前頭一、(d)ノ措置ハ付属地ヲ  
除外セル往電第三一九号第一項ニ同意スルニカリ我方委員  
ヲシテ『付属地ヲ除外セル右規定ヲ認ムルハ蓋シ帝国側ニ  
於テ此際付属地ヲ本条約適用区域トナスコトニ付同意ニ達  
スルコト困難ト認メタルニ依ルニ止マレリ決シテ帝国側ニ  
於テ右ノ点ニ関スル英國委員ノ主張ヲ認メサル次第ニアラ  
ス帝国側トシテハ其從來ノ主張ハ将来ト雖モ飽ク迄之ヲ維  
持スルモノナリ』トノ趣旨ヲ宣言セシメ之ヲ記録ニ止メシ

マル様取計フ積リナリ

一五八 十月二十九日 帰原外務大臣ヨリ  
協定税率以外ノ条項修正方ニ関スル閣議請議  
ノ件

通総調機密第一三三号

大正十三年十月二十九日

内閣總理大臣 加藤 高明殿

外務大臣 帰原 喜重郎

日英通商航海条約改正方ニ關シ請議ノ件

明治四十四年四月三日倫敦ニ於テ調印セラレタル現行日英  
通商航海条約ハ既ニ客年七月十六日ヲ以テ期間満了シタル  
モ兩締約國ノ一方ヨリ他ノ一方ニ對シ前記期日ニ先ツコト  
一個年以前及其ノ後ニ於テ廢棄ノ通告ヲ為ササリシニ付今  
日依然其ノ効力ヲ存続セリ然ルニ帝国政府ニ於テハ昨年四  
月九日閣議決定ノ方針ニ基キ現行日英通商航海条約ニ對シ  
テハ依然廢棄ノ手続ヲ採ラサルト共ニ協定税率ヲ改正又ハ  
廃止セシムルカ為交渉ヲ試ミ其ノ結果本年七月十一日閣議  
廢止セシムルカ為交渉ヲ試ミ其ノ結果本年七月十一日閣議

決定ノ通り該協定税率ヲ全廢スルコトトナリタルカ之ト同

時ニ其ノ他ノ条項ニ對シテモ前記客年四月九日ノ閣議決定  
及ヒ其ノ後ニ於ケル條約改正調査委員会ノ決議ヲ參酌シ在  
倫敦林大使ヲシテ交渉セシメツツアリン処大体左記要項ノ  
通リ前記現行条約ヲ修正スルコトノ協議進捗致シ候ニ付テ  
ハ右交渉結了次第前記修正ヲ目的トスル議定書調印方訓令  
スルコト致度候条右閣議決定相成度此段及請議候也

(別紙トシテ日英通商航海条約改正要項を作成ノコト)

(別紙)

日英通商航海条約改正要項

(一)帝国殖民地(閩東州及南洋委任統治地域ヲ含ム)ニ条約

ノ規定ヲ適用スルコトトシ但シ一定期間ノ予告ヲ以テ脱退

ノ自由ヲ留保スルコト

(二)英領各自治領及殖民地ニハ何時タリトモ条約ニ加入スル

ノ自由ヲ有セシムルコト

(三)陸境經由ノ輸入貨物ニ對シ特別ノ場合ニ關稅上ノ優遇ヲ

与ヘ得ヘキコトヲ明確ニスルコト

(四)沿岸貿易ニ關スル最惠国待遇ハ相互条件ニ依リ付与スル

コトニ改ムルコト

第四〇八号

別電 十一月二十五日 帰原外務大臣ヨリ  
報第四〇九号

陸境關稅特遇、委任統治地域ニ對スル條約

用等ニ關シ指示ノ件

一五九 十一月二十五日 帰原外務大臣ヨリ  
在英國林大使宛(電報)

(省略)  
原外務大臣宛「日英通商航海条約改正ニ關スル件請議ノ  
通」ナル旨ノ指令アリ

(一)条約改正調査委員会ニ於テ本件特遇ハ将来或ハ南北樺太

問ニ其ノ必要ヲ生スルヤモ計ラレサルニ付限定的字句ノ使用ヲ避クルコトニ決議シタルノミナラス我提案ハ海港条約当該条項ノ範囲ヲ出テサルモノナルニ付相当困難ノコトトハ思考スルモ一応別電第四〇九号ノ案文ヲ提議セラレ先方ヲシテ之ニ同意セシムル様御尽力アリ度ク其上ニテ先方ノ同意ヲ得ルコト不能ト認メラレタルトキハ land frontiers of Japanese territory と land frontier of Corea と修正方予メ承認ス

(1) 貴電第六七一号ノ一(b)ニ関シ累次電報シタル留保ハ

(A) 及(B)両式ニ対シ特ニ必要ナリシ次ナル処此ノ

際右(A)(B)ノミニ対シ特ニ留保ヲ設ケ置クトキハ

(C) 式ニ対スル我主張ヲ拠棄シタルモノト解セラルル虞アルニ付前記留保ヲ議事録等ニ留ムルニ當リテハ特ニ(A)

(B) ナル字句ヲ用ヒ斯单ニ委任統治地域ニ本件条約適用ノ場合云々トセラレタシ

(3) 付属地自身ノ問題ニハ此際改メテ言及スルノ必要モナカルヘシト思考スルニ付御来示ノ趣旨ヲ記録ニ留メラルニ及ハス尤モ我ニ於テ租借地ニ於テ生産セル或種ノ貨物ニ付本邦ヘノ輸入ニ当リ特惠制度ヲ設ケントスルノ議アルコト

ハ適當ナル方法及程度ニ於テ先方ニ通シ置カルル様致シ度シ

四 本件日英条約改正ニ関スル議定書ハ批准ヲ要スル形式トシタク全権御委任状奏請手続上ノ都合モアルニ付交渉全部纏リタルトキハ調印前其ノ旨電報アリタシ

(別電)

十一月二十五日幣原外務大臣在英國林大使宛電報第四〇九

號 陸境關稅特遇ニ関スル我方修正案

第四〇九号

別電

The stipulations of the Treaty of Commerce and Navigation signed at London on 3rd April, 1911, will not be held to preclude Japan from making any special reduction of customs duty for goods imported over the land frontiers of Japanese territory, which may be shown to be justified. (以下往電二五八同シ)

一六〇 十一月二十六日 在英國林大使ヨリ

幣原外務大臣宛(電報)

### 鉄道付属地及ビ租借地ニ関スル措置方ノ意味

#### ニツキ回示方要請ノ件

(十一月二十七日接受)

貴電第四〇八号(1)冒頭ニ付属地トアル処右ハ往電第六七一号(1)即チ同電(1)ノ措置ヲ執ルノ要ナシトノ御意見ニシテ前頭「尤」以下ハ租借地ニ關シテハ當方意見ニ御賛成ナレハ後日ノ為同地生産物優遇ノ儀アルコト適宜先方へ通シ置ク意味ト解シ然ル可キヤ折返シ御回示ヲ請フ

一六一 十二月一日 在英國林大使(ヨリ)

陸境關稅特遇ニ関スル我方修正案ニ關シ英國

側ト折衝ノ件

#### 回報ノ件

第四一二号

貴電第七九四号前段付属地ニ關シテハ貴見ノ通リナリ又後

段租借地ニ關シテハ當方ニ於テモ貴電第六七一号(1)記載ノ

貴見ノ通り此ノ際強ヒテ特別ノ措置ヲ採り置カストモ租借

地ノ性質上同地生産物ニ対シ優遇シ得ヘキコトニ付何等疑

義ヲ生スヘキモノニ非スト思考スルモ從来帝国ニ於テ租借

地生産物ヲ一般外國品ト同一視シ來リタル沿革モアルニ付

ハ適當ナル方法及程度ニ於テ先方ニ通シ置カルル様致シ度シ

第八〇五号

貴電第四〇八号(1)ニ關シ

三日岡本「ファウンテン」ヲ往訪シ貴電第四〇九号ノ案

(本使ノ裁量ニ依リ別電第八〇六号ノ修正ヲ加ヘ双務の形

式ニ改メタリ)ヲ交付シ右ハ同氏ノ案ヲ帝国政府ニ送付シ

タル結果ニシテ帝国側ノ修正ハ主トシテ字句ノ上ニ止マルモ唯一点実質的修正アリ右ハ同氏ノ案カ朝鮮陸境ヲ限定的ニ限定セルヲ一般的ニ締約国ノ一方ノ陸境ト改メタル点ナリト告ケ元来本件提議ハ海港条約第七条ヲ繰リ返セルニ等シキモノニテ之ニ同意シタレハトテ英國ハ何等失フ所ナク日本モ別ニ所タナレ護惣ヲ為ス次第ニアラス又元來日本カ

諸ミタル上自分トシテハ左シタル異議ナキモ右ハ自一ノ意見ナリト謂ヒタルニ付右案ニ閲スル英國側全体ノ意向ヲ質シ大体ニ於テ同意ヲ得ハ會議ヲ開クコトシタキ旨申入レ先方ノ承諾ヲ得タリ

(別電)  
在英國林大使發幣原外務大臣宛十一月四日着電報第八〇六號  
陸境關稅特遇ニ閣スル我方提案

問題ニ過キス他方帝國側ニ於テ同種ノ案ニ同意セハ兎ニ角一般的形式ナル海港條約第七条ノ適用ヲ日英間ノ關スル限リ朝鮮陸境而已ニ限定シ其以外ニハ排斥スルコトヲ取極ム

ルノ結果トナルノ不都合アリ又目下ノ日露交渉ハ何等ノ結果ヲ生セサルモ知レス又如何ナル結果ヲ生スルヤモ知レス

尙本件提議ヲ議定書中ニ規定スルコトヲ英國側ニテ好マレ  
サルニ於テハ公文交換ノ方法ニ由ルコトトスルモ異議ナキ  
旨ヲ告ケタルニ「ファウンテン」ハ一応我提案ヲ査閲シ右  
ハ双務的形式ナルモ英國側トシテハ南北愛蘭間以外ニハ陸  
境ナキニ付實際ハ日本ニ而已利益アル規定ナリトノ批評ヲ

シタルモ右ハ條約上優遇ヲ与へ得ヘキ権利ヲ留保シ置カム  
トスルニ止マリ右実行ノ時期方法ハ固ヨリ果シテ實際上之  
ヲ実行スルニ至ルヤサヘモ未タ全然未定ナリ從テ日露交渉  
解決ノ曉ニ於テモ必スシモ樺太國境ニ於テ前記優遇ヲ実行  
スルノ意図アルニ非ス只日英條約改正ノ際特ニ朝鮮ナル文  
字ヲ使用スルトキハ貴電中段ノ如ク樺太陸境ニ於テハ海港

條約第七条ニ示スカ如キ特別事情ノ有無ニ拘ラズ特別關稅ヲ設ケ得サルコトヲ予メ承認スルヤノ感ヲ懷カシム結果トナルニ依ル就テハ先方ヲシテ日露交渉成立後樺太陸境ヲ特別ノ關稅制度ヲ施行スルノ内意ヲ我ニ於テ有スルカ如キ

¶ preclude Japan ¶ preclude either of The High Contracting Parties ¶ 計  
¶ Japanese territory ¶ the territory of that party

卷之三

幣原外務大臣ヨリ

一六三 二月十五日

在英國林大使宛（電報）

件

卷之二

貴電第八〇五號

貴電第ノ〇五号中段ニ關シ